

甲斐市文化財調査報告 第25集  
(山 梨 県)

# 松ノ尾遺跡 15

宅地造成工事に伴う  
弥生・古墳・平安時代の発掘調査報告書

2016  
甲斐市教育委員会

甲斐市文化財調査報告書 第25集 (山梨県)

松ノ尾遺跡 15 宅地造成工事に伴う弥生・古墳・平安時代の発掘調査報告書

2016 甲斐市教育委員会

甲斐市文化財調査報告 第25集  
(山 梨 県)

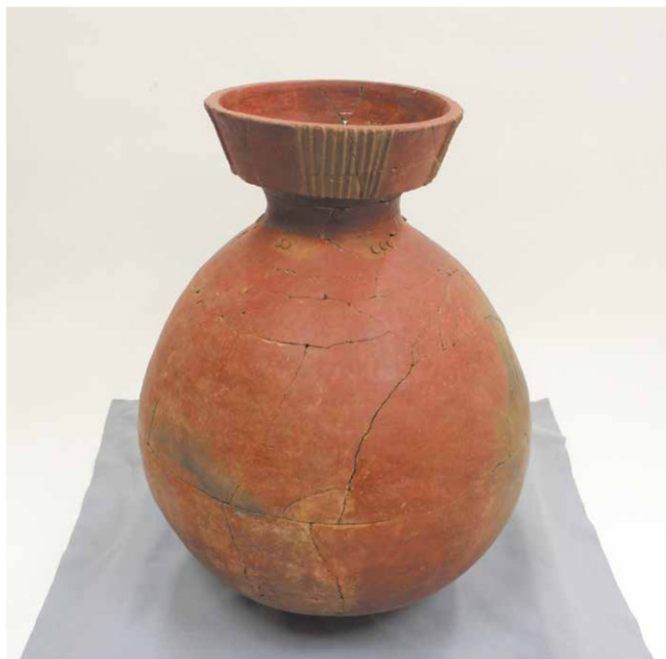
# 松 ノ 尾 遺 跡 15

宅地造成工事に伴う

弥生・古墳・平安時代の発掘調査報告書

2016

甲斐市教育委員会



写真上：6号周溝墓出土 大型赤彩壺

写真左：落ち込みから出土

ベンガラ入りの壺

---

## 序 文

甲斐市は県都甲府に隣接し、交通の利便性が良いことで知られ、市の人口は年々増え続けております。その結果、宅地造成などの開発によって生じる緊急の埋蔵文化財発掘調査も増加しています。

甲斐市には数多くの遺跡があり、市中央部の茅ヶ岳南麓や市東部の荒川扇状地に集中しています。この中には居住域、墓域がセットで発見された弥生時代の「金の尾遺跡」や、山梨県最古の登窯跡である「天狗沢瓦窯跡」など、重要な遺跡が点在していることから、山梨県の歴史を学習する上でも注目される地域となっています。

今回報告します「松ノ尾遺跡」の発掘調査は、甲斐市中下条地内の分譲地造成に伴い行われました。調査の結果、古墳時代初頭の周溝墓や古代の住居跡、生活や祭祀に使われた土器などが多く発見され、また、弥生時代から古墳時代初頭の土器の中では、山梨県最大の壺が出土し、新たな歴史資料を得ることができました。

先にも述べましたとおり、近年甲斐市では頻繁に開発が行われるようになり、埋蔵文化財の保護が急務となってきております。今後は調査で得られました成果を後世に伝えていくとともに、学校教育や歴史研究、生涯学習の資として多くの方々に幅広く活用していただければ幸いです。

最後に、土地所有者の長田 義元氏、清水 和子氏の文化財保護に対する深いご理解のもと、調査が実施できましたことに感謝するとともに、ご指導、ご協力いただきました関係各位に感謝申し上げます。

2016年3月

甲斐市教育委員会

教育長 勝 村 秀 彦

---



## 例 言

1. 本書は、山梨県甲斐市中下条1434-1、1444、1445に所在する松ノ尾遺跡第15次発掘調査報告書である。
2. 本書は、長田 義元氏、清水 和子氏による宅地造成工事に伴い実施された。調査面積は造成工事内の公道建設予定地718㎡である。調査費用負担は長田 義元氏、清水 和子氏による。
3. 発掘調査及び整理分析調査期間  
試掘調査 平成26年12月9日～平成26年12月22日  
発掘調査 平成27年5月8日～平成27年8月20日  
整理分析調査 平成27年8月26日～平成28年3月31日
4. 調査組織は次のとおりである。  
調査主体者 甲斐市教育委員会  
調査担当者 長谷川 哲也（甲斐市教育委員会教育部生涯学習文化課文化財係）  
調査事務局 甲斐市教育委員会教育部生涯学習文化課文化財係  
発掘・整理分析調査協力員（敬称略・五十音順）  
青柳 正史、秋山 高之助、有野 明子、伊井 実、笠井 治、小林 求、小松原千津、斉藤 功記、醍醐 三郎、  
高添 美智子、滝沢 やす子、立花 重光、田中 ひとみ、堤 吉彦、手塚 松雄、羽中田 勲、日向 充雄、  
古屋 秀雄、深澤 友子、森沢 篤美、望月 典子、横内 博（敬称略・五十音順）
5. 本書の執筆は第4章を西願 麻衣（山梨県立博物館・学芸員）が執筆し、それ以外は長谷川が執筆した。
6. 銅銭の保存処理は（公財）山梨文化財研究所に委託した。
7. 報告書作成にあたり、以下の方々には御指導、御助言を賜った。厚く御礼申し上げる。（敬称略）  
坂本 美夫、新津 健、中込 司郎、鈴木 麻里子、畑 大介（甲斐市文化財保護審議委員）、中山 誠二、  
保坂 和博（山梨県教育庁学術文化財課）、小林 健二（山梨県立考古博物館）、佐野 隆、  
渡邊 泰彦（北杜市教育委員会）、平塚 洋一（甲府市教育委員会）、稲垣 自由（大月市教育委員会）
8. 本書の編集及び遺構、遺物の写真撮影は長谷川が行った。
9. 松ノ尾遺跡第15次発掘調査において得られたすべての資料は一括して甲斐市教育委員会に保管してある。

## 凡 例

1. 座標は世界測地系に準拠した。また、標高は東京湾平均海面水準である。
2. 遺構堆積土及び土器の色調は、農林水産省農林技術会議事務局監修『新版 標準土色帳』に準拠している。
3. 遺物挿入図、断面白抜きは弥生土器・土師器・土師質土器、■は青磁、土器内外面の□は赤彩を表示し、□は焼土を表示している。
4. 各挿入図の縮尺は、遺構1/4、土器1/3、石器・石製品1/2を原則とし、それぞれにスケールを付した。
5. セクション図、エレベーション図内の標高の単位（m）は省略している。
6. 出土遺物観察表の計測値欄中、（ ）内数値は推定を表し、残部の計測は数字の頭に「残」と記した。
7. 遺構平面図中の数字と黒点は、遺物挿入番号と出土位置を表す。
8. 遺物番号は本文、挿入図、観察表で統一してある。
9. 挿入図目次の土坑名とピット名は、紙面の関係上省略した部分もある。
10. 本書で使用した地図は、甲斐市都市計画地図である。

# 本文目次

巻頭図版

序文

例言・凡例

目次

第1章 調査の概要	1
第2章 遺跡の立地と環境	
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 遺構と遺物	
第1節 基本層序	6
第2節 住居跡	8
第3節 周溝墓	10
第4節 溝	12
第5節 竪穴状遺構	13
第6節 土坑ピット	14
第7節 その他の遺構	16
第4章 自然科学分析	
第1節 松ノ尾遺跡出土大型赤彩壺の科学調査	17
第2節 松ノ尾遺跡出土土師器壺内の赤色物質の科学調査	18
第5章 まとめ	22

# 挿図目次

第1図 松ノ尾遺跡と周辺の遺跡	3	第14図 1号周溝墓 3～6号土坑	33
第2図 調査区位置図	4	第15図 2号周溝墓 1号溝	
第3図 調査区全体図	5	1号竪穴状遺構 1、2、44号土坑	34
第4図 基本土層	6	第16図 3号周溝墓 26号土坑	35
第5図 1号住居跡 1号住居跡カマド		第17図 4号周溝墓 4、5号竪穴状遺構	
1号溝	24	39号土坑	36
第6図 2号住居跡 7～9号土坑 43号土坑	25	第18図 5号周溝墓	37
第7図 3号住居跡 4号溝 10～12、19、		第19図 6号周溝墓 31～35、40、42号土坑	38
20号土坑	26	第20図 6号周溝墓 遺物実測図	39
第8図 4号住居跡 5号住居跡		第21図 5号溝 1号溝状遺構	
63、67号土坑	27	13、14、18、27、28、75号土坑	40
第9図 6号住居跡 66、69、72号土坑	28	第22図 1号石積壁竪穴状遺構	
第10図 6号住居跡カマド	29	3号、6号竪穴状遺構	41
第11図 7号住居跡 落ち込み 74号土坑	30	第23図 8号、10号～12号竪穴状遺構	42
第12図 9～12号住居跡 70、71、73号土坑	31	第24図 15～17、21～24、30、	
第13図 12号住居跡カマド	32	37、38、41、52号土坑	43

第25図	45～47、50、53～56、58～60号土坑……………44	第31図	9号住居跡 12号住居跡
第26図	25、36、48、51、57、64、65号土坑、 1、2号集石土坑、集石遺構……………45		1号石積壁竪穴状遺構
第27図	9～11号溝、62号土坑、ピット群……………46	第32図	10号竪穴状遺構出土遺物……………50
第28図	1号住居跡 2号住居跡	第33図	1号周溝墓出土遺物……………51
	3号住居跡出土遺物……………47		2号周溝墓 3号周溝墓
第29図	3号住居跡 4号住居跡		4号周溝墓出土遺物……………52
	5号住居跡出土遺物……………48	第34図	5号周溝墓 6号周溝墓出土遺物……………53
第30図	6号住居跡 7号住居跡	第35図	44号土坑 69号土坑 9号溝
	9号住居跡出土遺物……………49		落ち込み 遺構外 出土遺物……………54

## 表 目 次

第1表	土坑・集石土坑観察表……………14	第3表	出土遺物観察表……………55
第2表	ピット観察表……………16		

## 写真図版目次

図版1	調査前風景（東から）		6号住居跡カマド 遺物出土状況（北西から）
	調査前風景（西から）		6号住居カマド 完掘（北西から）
	調査区西側①（東から）	図版4	7号住居跡（北から）
	調査区西側②（東から）		9号住居跡（北西から）
	調査区中央①（西から）		12号住居跡カマド 検出（西から）
	調査区中央②（西から）		12号住居跡カマド 完掘（西から）
	調査区東側①（西から）		1号周溝墓（南東から）
	調査区東側②（東から）		1号周溝墓（北西から）
図版2	1号住居跡（西から）		1号周溝墓 遺物出土状況（南東から）
	1号住居跡 カマド（西から）		1号周溝墓 遺物出土状況（南西から）
	2号住居跡（北西から）	図版5	2号周溝墓（北東から）
	2号住居跡（南西から）		2号周溝墓（南東から）
	2号住居跡 遺物出土状況（北から）		3号周溝墓（南西から）
	3号住居跡（北から）		3号周溝墓（南東から）
	3号住居跡（北西から）		3号周溝墓 遺物出土状況（北から）
	3号住居跡 遺物出土状況（東から）		4号周溝墓（北西から）
図版3	4号住居跡（南から）		4号周溝墓（北東から）
	4号住居跡（西から）		5号周溝墓（南東から）
	5号住居跡（南西から）	図版6	5号周溝墓（南西から）
	5号住居跡（北西から）		6号周溝墓（北西から）
	6号住居跡（北から）		6号周溝墓（南西から）
	6号住居跡（北西から）		6号周溝墓 遺物出土状況（北から）

- 6号周溝墓 遺物出土状況(北西から)
- 6号周溝墓 遺物出土状況(上から)
- 6号周溝墓 遺物取り上げ状況①
- 6号周溝墓 遺物取り上げ状況②
- 図版7 6号周溝墓 遺物取り上げ状況③
- 6号周溝墓 遺物取り上げ状況④
- 6号周溝墓 遺物取り上げ状況⑤
- 6号周溝墓 遺物取り上げ状況⑥
- 6号周溝墓 遺物取り上げ状況⑦
- 1号溝 完掘(東から)
- 4号溝 完掘(南から)
- 9号溝 完掘(北東から)
- 図版8 3号竪穴状遺構 完掘(南西から)
- 4号竪穴状遺構 完掘(西から)
- 8号竪穴状遺構 完掘(南から)
- 10号竪穴状遺構 完掘(西から)
- 1号石積壁竪穴状遺構 完掘(南から)
- 1号石積壁竪穴状遺構 完掘(南から)
- 1号石積壁竪穴状遺構 完掘(西から)
- 3号土坑 完掘(南から)
- 図版9 4号土坑 完掘(南から)
- 5号土坑 完掘(南から)
- 8号土坑 完掘(北西から)
- 9号土坑 完掘(北西から)
- 13号土坑 完掘(東から)
- 14号土坑 完掘(南から)
- 21号土坑 完掘(南から)
- 25号土坑 完掘(南から)
- 図版10 27号土坑 完掘(南から)
- 33号土坑 完掘(東から)
- 33・34号土坑 完掘(南から)
- 41(奥)・37号土坑 完掘(東から)
- 39号土坑 完掘(南から)
- 44号土坑 完掘(南から)
- 44号土坑 遺物出土状況(南西から)
- 53号土坑 完掘(北から)
- 図版11 54号土坑 検出(北から)
- 54号土坑 完掘(北から)
- 67号土坑 半掘(北から)
- 67号土坑 完掘(南から)
- 69号土坑 完掘(南から)
- 1号集石土坑 検出(南から)
- 1号集石土坑 完掘(南から)
- ピット群(北西から)
- 図版12 集石 検出(南から)
- 落ち込み 完掘(北から)
- 落ち込み 遺物出土状況①(北から)
- 落ち込み 遺物出土状況②(北から)
- 調査風景①
- 調査風景②
- 双葉中学校 職場体験
- 竜王北中学校 職場体験
- 図版13 土器(1~7、11~15、17、18、20)
- 図版14 土器(8~10、16、21~23、25~28、32)
- 図版15 土器(35~37、39、46~51、53~59)、石製品(42、43)
- 図版16 土器(52、60、63、64)、金属製品(69、70)

# 第1章 調査の概要

現在の甲斐市域の過去30年間の人口増加率をみると、昭和50年の34,986人に対し、平成27年12月現在の人口は74,969人である。この30年間で人口は2倍以上の増加となっている。また、平成に入ってから人口増加のペースはゆるやかになっているものの、平成17年当時の人口74,062人に比べ、現在の人口は約1,000人の増加となっている。ゆるやかに人口が増加している甲斐市では、周知の埋蔵文化財包蔵地・包蔵地外にかかわらず、水田や畑地として利用している、あるいは利用していた土地を開発する傾向がみられる。

そのため、文化財保護法第93条に基づく届出件数も甲斐市の人口と同様ゆるやかに増加している。包蔵地内における工事の立会や試掘調査、本調査も増加している。とくに分譲地を造成するにあたり、恒久的建造物である道路を造成する必要があることから、必然的に試掘調査の件数も増加しており、このことは本調査の増加にもつながっている。

本報告も、分譲地造成に伴う本調査が行われたものである。平成26年10月2日に文化財保護法第93条第1項に基づく届出が提出された。同年10月10日に山梨県教育委員会教育長宛に、試掘調査が必要である旨の意見書を添えて進達した。その後、同年10月14日付で山梨県教育委員会教育長から試掘調査の指示が申請者になされた。

それをふまえ、同年12月9日～12月22日かけて市教育委員会によって試掘調査が行われた。開発予定区域内の恒久的建造物（道路）予定部分に6本のトレンチ（1.5m×10m）を設定し調査を行ったところ、すべてのトレンチで遺構・遺物が確認された。このことから、申請者に本調査が必要であることを回答した結果、平成27年1月29日に発掘調査の依頼が甲斐市教育委員会宛に提出され、同日收受した。

本調査は平成27年5月8日から始まった。前年度に試掘調査を行った恒久的建造物（道路）部分全体の表土を除去し、遺構掘削は人力で行われた。遺構のセクション図・エレベーション図・出土遺物の平面図は手実測で行い、遺構測量と遺物の取り上げは疾測量株式会社に委託した。発掘調査は同年8月20日まで行われた。

平成27年8月26日から整理・分析作業を開始した。実測図のトレースは製図ペンで行い、版下を作成した。ただし、大型赤彩壺の実測・トレースのみ『Adobe Illustrator Ver.CS2』で行った。自然科学分析は、山梨県立博物館学芸員の西順麻衣氏に依頼した。それらと並行し、発掘調査現場での情報をもとに遺構の図面や出土遺物の検討を行い、本報告を記述した。これら一連の作業を終え、平成28年3月31日に報告書の刊行となった。

## 第2章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的環境

甲斐市は甲府盆地の西側に位置し、南北に細長い形をしている。平成16年9月1日に双葉町・敷島町・竜王町の3町が合併し甲斐市となった。面積は71.94㎡、人口は平成27年11月末現在およそ7万4千人である。市域は標高千数百mの山岳地から、丘陵、扇状地などバラエティに富んだ地形である。市域はおおよそ4つのエリアに分類することができる。市の北部は茅ヶ岳（1704m）や曲岳（1642m）、太刀岡山（1259m）など、標高千数百mを超える山々が点在する山岳エリア。市の中央部分は茅ヶ岳の火山活動によって形成された台地が広がる茅ヶ岳南麓の丘陵エリア。市の西部は南アルプス鋸岳を源流とする釜無川によって形成された扇状地エリア。市の東部は、甲府市との境を流れる奥秩父山系の金峰山を源とする荒川によって形成された扇状地エリアという具合である。

松ノ尾遺跡は、市域の東部に立地し、甲府市との境界を流れる荒川と、茅ヶ岳火山によって形成された通称「登美台地」との間に位置する。この台地と荒川の間（旧敷島町南部）には、南北に延びる2本の微高地があり、本遺跡は東側の微高地上に営まれていた集落遺跡である。同じ微高地上には白鳳期の瓦や銅製小仏像の台座が出土した村続遺跡、末法遺跡や不動ノ木遺跡などが立地する。埋没した谷をはさんで西側の微高地には、県下でも著名な弥生時代後期の集落遺跡である金の尾遺跡、平成25年度の発掘調査で管玉の未製品が出土した御岳田遺跡などが立地する。

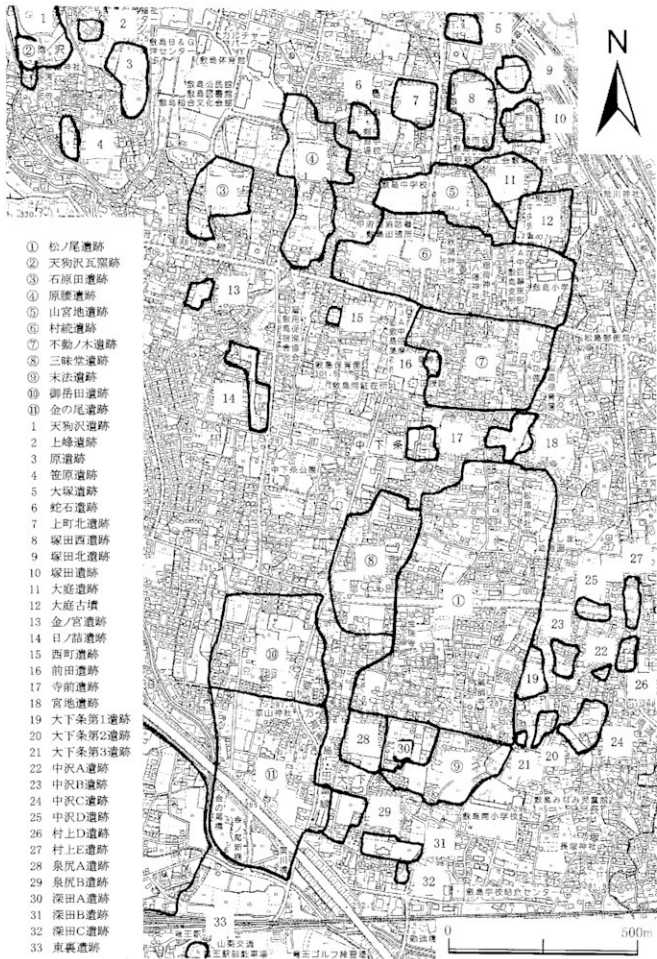
遺跡の範囲は南北に約700m、東西に約400mの広がりをもつことが明らかになっており、標高は約290mである。

### 第2節 歴史的環境

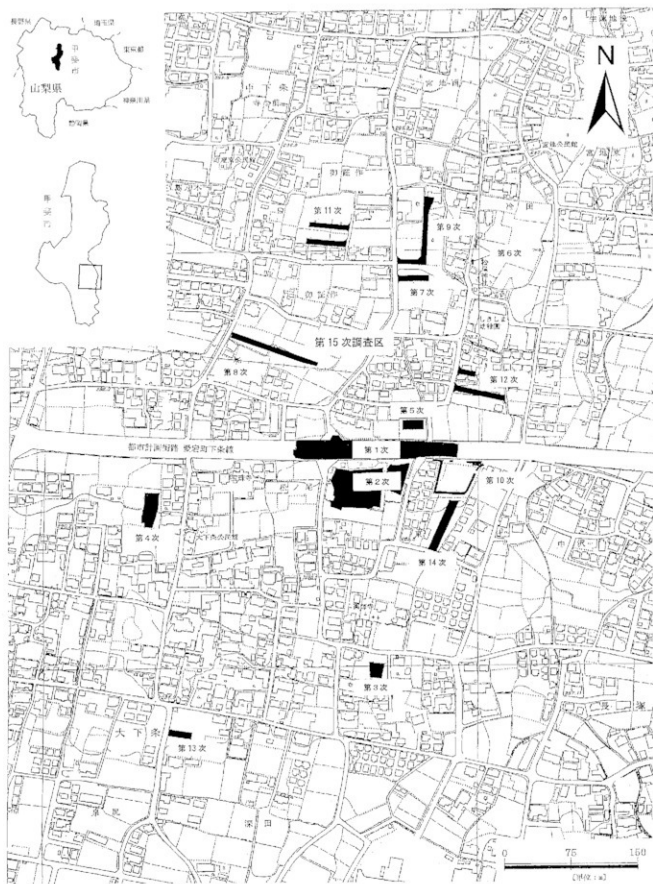
松ノ尾遺跡の調査は、甲斐市大下条・中下条・長塚を通る都市計画街路愛宕町下条線の道路建設に伴って、平成6年(1994)から平成7年(1995)にかけて第1次発掘調査が行われたのが始まりである。このときの調査では、のちに県指定文化財(平成8年5月2日指定)となる「銅造仏形坐像」2軀が出土している。その後、14次にわたる発掘調査が行われた結果、本遺跡は縄文、弥生、古墳、奈良、平安、鎌倉、室町の各時代にわたる複合遺跡であることが明らかとなった。特に、遺跡の広い範囲で古墳時代後期の住居跡が発見されていることから、同時期の集落が大きく展開していることがうかがい知れる。

また、遺跡中央を東西に横断する前述の道路・愛宕町下条線の周辺から南側にかけては、奈良時代と平安時代後半(8～10世紀代)の住居跡などの遺構群が検出されている。そして、愛宕町下条線の北側にかけて平安時代後期(11・12世紀)から中世にかけての遺構群が主に検出されている。出土遺物は、奈良・平安時代では土師器、須恵器、灰軸陶器を中心に出土している。特殊な遺物については、塑像の螺髻、布目瓦、円面硯、緑釉陶器、壺G、貿易陶磁器の青白磁、青磁類、帯金具(鉄製鉸具、銅製蛇尾具)、銅碗片、銅製連繫金具、前述した銅造仏形坐像が挙げられる。

本遺跡は、縄文時代から室町時代までの広範囲に及ぶ複合遺跡であるが、古墳時代から平安時代に一つの隆盛を迎えることが、遺構や遺物から伺い知ることができる。また、出土遺物の中でも先に挙げたような特殊な遺物が出土することから、本遺跡は一般集落とは考えがたく、本県の古代史を解明する上でも重要な遺跡である。



第1図 松ノ尾遺跡と周辺の遺跡



第2図 調査区位置図



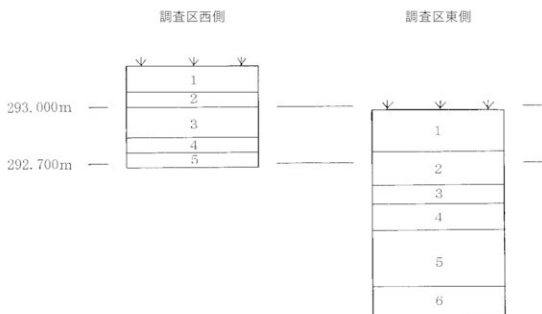


## 第3章 遺構と遺物

### 第1節 基本層序

基本土層は調査区が東西に長いことから(約120m)、調査区の西側と東側でそれぞれ記録した。その理由として、調査区西側は東側よりも一段高くなっており、土層の堆積状況が東西で若干の違いがあるからである。堆積状況の違いは、西側が擁壁で囲まれた水田として利用されていたこともあるが、調査区の東西で地山の検出面の高さが異なったことから、もともとゆるやかに西から東へ傾斜している地形であったことに起因する。その結果、調査区東側よりも地山検出面の高い調査区西側では、東側にみられるような包含層が検出されなかったが、東側では傾斜に沿って包含層が堆積していた。なお、包含層の堆積が明瞭に認められる範囲は、おおよそ4号住居跡・5号住居跡付近からである。

基本土層とした箇所は、調査区西側は1号住居と1号周溝墓の間の北壁、調査区東側は6号住居と11号住居の間の北壁である。以下に調査区西側と東側の基本土層図をあげる。



第4図 基本土層

#### 調査区西側

第1層 灰黄褐色土(10YR 4/2) 粘性あり しまり強い 耕作土

第2層 褐色土(7.5YR 4/3) 粘性あり しまり非常に強い 1mm大の白色粒子を含む 床土

第3層 赤褐色土(5YR 4/8) 粘性あり しまり非常に強い 1mm大の白色粒子、5mm大の小礫を含む

第4層 褐色土(7.5YR 4/4) 粘性あり しまりあり 1mm大の白色粒子を含む

第5層 黒褐色土(7.5YR 3/2) 粘性あり しまりあり 1mm大の白色粒子を含み、炭化物を微量に含む

地山 褐色土 粘性あり しまりあり 雲母を多量に含み、砂質

#### 調査区東側

- 第1層 褐灰色(10YR 4/1)粘性あり しまりやや弱い 耕作土
- 第2層 褐色土(7.5YR 4/3)粘性あり しまり非常に強い 床土
- 第3層 灰黄褐色土(10YR 4/2)粘性あり しまり非常に強い 1mm大の白色粒子を含み、5mm大の小礫を少量含む、雲母を微量に含む
- 第4層 ぶい黄褐色度(10YR 4/3)粘性あり しまり非常に強い 1mm大の白色粒子を含み、5mm大の小礫を少量含む
- 第5層 黒褐色土(7.5YR 2/3)粘性あり しまり非常に強い 1mm大の白色粒子を多量に含み、5mm大の小礫を含む 包含層
- 第6層 黒褐色土(10YR 3/3)粘性あり しまり強い 1mm大の白色粒子を含み、5mm大の小礫を含む 暗褐色土(10YR 3/3)塊を少量含む
- 地 山 暗褐色土(10YR 3/3)粘性あり しまり非常に強い 1mm大の白色粒子を含み、5mm大の小礫を含む

## 第2節 住居跡

今次調査において、住居跡は11軒検出された。以下に遺構・遺物について述べる。調査区は、便宜上西側・中央・東側と分類した（第3図の調査区全体図を参照）。

### 1号住居跡（遺構：第5図 遺物：第28図）

- 位 置 調査区西端に位置し、1号溝に切られる。
- 形状・規模 平面形は隅丸方形を呈すると思われる。規模は残存している部分で東西約2.7m、南北約1.3mである。住居北側は調査区外に及び、南側は1号溝に切られて判明しない。そのため、南壁が1号溝の中にあっただことを考慮すると、カマドは東壁やや南寄りに位置していたと思われる。
- 遺 物 出土遺物は破片がほとんどで、図化できるものが少なかったものの、第28図-1のような土師質土器片が出土した。
- 遺 構 時 期 平安時代後期

### 2号住居跡（遺構：第6図 遺物：第28図）

- 位 置 調査区西側に位置し、5号周溝墓に切られる。
- 形状・規模 住居北側は調査区外に及ぶものの、平面形は隅丸長方形を呈し、長軸約4m、短軸約3.5mである。床面ほぼ全体に硬化面が確認された。炉跡、柱穴は硬化面下からも確認できなかった。5号周溝墓と重複関係にあり、検出状況からは新旧関係が判断できなかった。そのため、セクション図の観察から、2号住居跡が自然埋没したのちに5号周溝墓が掘られていると判断した。
- 遺 物 複合口縁壺（3）は住居上層の壁の立ち上がりから出土し、甕底部（4）は床面から出土した。台付甕（6）は甕と脚部に別れて出土し、どちらも伏せた状態で出土した。
- 遺 構 時 期 弥生時代後期末葉

### 3号住居跡（遺構：第7図 遺物：第28図、29図）

- 位 置 調査区中央に位置し、4号溝に切られる。
- 形状・規模 住居南側は調査区外に及ぶものの、平面形は隅丸長方形を呈していると思われ、検出範囲内で東西約3.6m、南北約1.5mである。炉跡、柱穴は確認できなかった。
- 遺 物 床面直上から口唇部に刻み目を施した台付甕（7）や甕（8）や、小型の鉢（10）が出土した。
- 遺 構 時 期 弥生時代後期末葉

### 4号住居跡（遺構：第8図 遺物：第29図）

- 位 置 調査区東側に位置し、5号住居跡を切る。
- 形状・規模 平面形は隅丸長方形を呈しており、長軸約3.4m、短軸約2.4mである。カマド、柱穴は確認できなかった。床面全体で硬化面が検出された。重複関係にあたる5号住居跡の床と、硬化面が連続している。東壁では、礫を2段重ねたものが検出された。1段目（床面直上）には扁平な礫を壁にもたれかけるように設置し、2段目には人頭大の礫を配置している。その配置の仕方から、人為的に置かれたものであると認識しているが、用途は不明である。
- 遺 物 古墳時代初頭の遺物（13、14）は、重複関係にあたる5号住居の遺物が混入したものであろう。白磁小片（15）が出土しているほか、立ち上がりが急な広口壺形態の土器（11）が出土している。全体的に土器小片が多く、図化できるものが少ない。
- 遺 構 時 期 平安時代後期以降

#### 5号住居跡 (遺構：第8図 遺物：第29図)

- 位 置 調査区東側に位置し、4号住居跡に切られる。
- 形状・規模 住居南側は調査区外に及ぶが、平面形は小判形を呈していると思われる。検出範囲内で東西約5.5m、南北約3.4mである。炉跡は確認できなかったものの、床面に掘り込まれた67号土坑の覆土には、多量の焼土が含まれていた。硬化面は床面全体に広がる。また、Pit-25、Pit-28は本住居の柱穴とみなした。また、住居北東壁にもたれかけのような格好で、用途不明の扁平な礫が検出されている。
- 遺 物 遺物は住居覆土からの出土がほとんどであったが、折り返し口縁壺(16)は床面直上から出土した。
- 遺 構 時 期 古墳時代初頭

#### 6号住居跡 (遺構：第9図、10図 遺物：第30図)

- 位 置 調査区東側に位置し、66号土坑に東壁の一部を切られる。
- 形状・規模 平面形は隅丸方形を呈し、東西約3.2m、南北約3.1mである。北壁の一部が調査区外へと伸長する。カマドは南東隅で検出され、カマド周辺には人頭大の礫が投棄されたような形で出土した。カマドは破壊されており、袖石等は検出されていない。硬化面は床面全体におよぶ。床面に69号土坑、72号土坑が掘り込まれている。
- 遺 物 遺物は破壊されたカマド内部から、完形の土師質土器小皿等(22、23、24)が出土した。羽釜(26)は、松ノ尾遺跡第14次調査(3号住居跡)においても、類似したものが出土している。
- 遺 構 時 期 平安時代後期

#### 7号住居跡 (遺構：第11図 遺物：第30図)

- 位 置 調査区東側に位置し、9号住居跡、落ち込みに切られる。
- 形状・規模 平面形は、9号住居跡・落ち込みに切られていることと、唯一遺存する西壁が調査区外におよぶため詳細は不明。検出範囲内で南北約2mであるが、硬化面は残存した床面全体におよぶ。
- 遺 物 ミニチュア土器(27)が西壁立ち上がり付近の床面から出土したほか、漏斗状を呈する壺(28)が出土した。
- 遺 構 時 期 重複関係から推測すると、古墳時代初頭以前か

#### 8号住居跡 欠番

#### 9号住居跡 (遺構：第12図 遺物：第30図)

- 位 置 調査区東側に位置し、7号住居跡を切り、10・11号の各住居跡と落ち込みに切られる。
- 形状・規模 平面形は遺存状況から小判型を呈すると思われる。規模は検出範囲内で東西約5.9m、南北約4.2mをはかる。住居跡北側は調査区外に伸長し、西壁は一部のみが残る。南壁は10号住居跡に切られているため遺存しない。硬化面は残存した床面全体におよぶ。
- 遺 物 片口を持つ土製品(30)は住居跡と調査区外との境界付近のやや上層から出土した。
- 遺 構 時 期 古墳時代初頭

#### 10号住居跡 (遺構：第12図 第31図)

- 位 置 調査区東側に位置し、9号住居跡を切り、12号住居跡カマドに切られる。
- 形状・規模 平面形は不明であるが、唯一残存する北壁から形状を予測すると、隅丸方形もしくは隅長方形、小判型を呈していると思われる。検出範囲内での最長辺は南北約3.7mである。

遺物	複合口縁壺(32)が住居跡の床面付近から出土した。
遺構時期	9号住居跡、12号住居跡カマドとの重複関係から時期を推定すると、古墳時代初頭～平安時代後期以前に属すると思われる。

#### 11号住居跡(遺構:第12図)

位置	調査区東側に位置し、9号住居跡に切られる。
形状・規模	平面形は不明であり、検出範囲内では、南北1.22mの規模である。
遺物	出土遺物なし。
遺構時期	9号住居跡との重複関係から時期を推測すると、古墳時代初頭以前に属すると思われる。

#### 12号住居跡カマド(遺構:第13図 遺物:第31図)

位置	調査区東側に位置し、9・10号各住居跡を切る。
形状・規模	遺構検出面は9号・10号住居跡よりも上層となる。黒色土中に住居跡が存在していたため、平面プランは不明である。カマドは袖石が部分的に残り、また火床面も良好に検出された。6号住居跡と同様、カマド付近には多量の礫が散乱していた。
遺物	カマド内から土師質土器片(33、34)が出土したほか、住居跡内とおぼしき黒色土上層からは、柱状高台片など土師質土器片が多く出土した。
遺構時期	平安時代後期

### 第3節 周溝墓

調査区西側から中央部にかけて周溝墓が6基検出された。以下に遺構・遺物を報告する。

#### 1号周溝墓(遺構:第14図 遺物:第32図)

位置	調査区西側に位置し、周溝南東部を1号溝に切られる。5号周溝墓と重複関係にあたる。周溝内の3号ピット、4号ピットは、1号周溝墓検出時に確認できたことから、周溝が埋没したのちに掘られたものである。調査区北壁に沿った土坑3基も、セクション図の観察から方台部が削平されたあとに掘られたものである。
形状・規模	平面形は隅丸方形を呈すると思われる。規模は残存している部分で東西約7.5m、南北約6mである。周溝は東側と南側が明瞭に残るが、西側の一部と北側は調査区外におよぶ。周溝の幅は1.2～1.5m、深さは最も深いところで約0.6m、南東隅にかけて深くなっている。周溝底面の形状はU字形である。方台部の盛土、埋葬施設及びブリッジは確認できなかった。しかし、調査区外へと伸長する東西の周溝は、調査区北壁と接するあたりで溝の深さが浅くなっており、調査区外にブリッジが2か所ある可能性も考えられる。
遺物	出土遺物は古墳時代初頭の遺物が中心である。複合口縁壺(37)は周溝南東部から横倒しで破損した状態で出土した。溝底ではなく、下層付近から出土したため、方台部にそなえられていたものが、周溝内に何らかの要因ですべりおちたものと考えられる。脚部が欠損している小型台付甕(39)は周溝西部の溝底から出土した。赤彩された小型広口壺(小型甕)(40)は、周溝東部の5号周溝墓と接する周溝底から横に倒れ破損した状態で出土した。石製紡錘車(43)は複合口縁壺(37)付近、同様の層位から出土している。
遺構時期	古墳時代初頭

#### 2号周溝墓(遺構:第15図 遺物:第33図)

位置	調査区西側に位置し、1号溝と1号竪穴状遺構、2号土坑、44号土坑に切られる。
----	----------------------------------------

形状・規模 平面形の詳細は不明であるが、検出された部分から推測すると、隅丸方形を呈すると思われる。北側と東側の周溝の一部のみ検出され、それ以外は調査区外におよぶ。規模は残存している部分で東西約11m、南北約6m、周溝の幅は約1.8～2m、深さは約0.6mである。周溝底面の形状はU字形である。方台部の盛土、埋葬施設及びブリッジは確認できなかった。

遺物 出土遺物は図化できるものが少なかったが、そのうち4点を図化した(45～48)。  
遺構時期 古墳時代初頭

### 3号周溝墓(遺構:第16図 遺物:第33図)

位置 調査区中央に位置し、1号石積壁竪穴状遺構や49号土坑などに切られる。

形状・規模 遺構の約半分が調査区外へと伸長するが、平面系は隅丸方形を呈すると思われる。東側と西側の周溝の一部のみが検出されたが、本次調査において最大規模の周溝墓である。それ以外は調査区外におよぶ。規模は残存している部分で東西約7.7m、南北約7.8m、周溝の幅は約1.3～1.6m、深さは約0.8mである。周溝底面の形状はU字形である。方台部の盛土、埋葬施設及びブリッジは確認できなかった。

遺物 溝底から出土した壺(52)は、底部は溝底に横位に埋まっており、肩部から口縁部にかけては、口縁部が周溝底に斜位に伏せるような格好で出土した。方台部に置かれていた土器が、何らかの要因で周溝内に落ちたものと思われる。そのほか、周溝の堆積土上層からは甕の破片(51)、周溝の中層付近からは小型の甕型土器の破片(49)、器面は摩耗しているものの赤彩が施された有段口縁壺の破片(50)が出土した。

遺構時期 古墳時代初頭

### 4号周溝墓(遺構:第17図 遺物:第33図)

位置 調査区中央に位置する。周溝上層は21号土坑、25号土坑に切られるほかは、4号竪穴状遺構、5号竪穴状遺構、52号土坑などに切られる。

形状・規模 北側と西側の周溝の一部のみ検出され、それ以外は調査区外に伸長する。検出された部分から推測すると、平面形は隅丸方形を呈すると思われる。規模は遺存している部分で東西約5.8m、南北約4.1m、周溝の幅は約1.1～1.5m、深さは約0.5mである。周溝底面の形状はU字形である。方台部の盛土、埋葬施設及びブリッジは確認できなかった。

遺物 出土遺物は破片がほとんどで、そのうち3点を図化した(53～55)。図化は出来なかったが、出土遺物の中には赤彩された土器片も数点あった。

遺構時期 古墳時代初頭

### 5号周溝墓(遺構:第18図 遺物:第34図)

位置 調査区西側に位置し、2号住居跡を切り、1号溝に切られる。

形状・規模 平面形は隅丸方形形し、北東隅にブリッジを設ける。今次調査で検出された周溝墓では、唯一確認されたブリッジである。北側の周溝は調査区外に伸長する。規模は遺存している部分で東西約8m、南北も約8m、周溝の幅は約0.7～1.4m、深さは約0.3mである。周溝底面の形状はU字形である。ブリッジの幅は約1.8mであった。方台部の盛土、埋葬施設は確認できなかった。

遺物 出土遺物は破片がほとんどであったが、そのうち3点を図化した(56～58)。

遺構時期 古墳時代初頭

### 6号周溝墓(遺構:第19図 遺物:第20図、第34図)

位置 調査区中央に位置し、34号土坑などに切られる。

形状・規模 平面形は不明であるが、形状と規模が調査区内で検出された周溝墓と類似しているため、周溝墓とした。規模は遺存している周溝の長さが約7.8m、周溝の幅は1.2～1.6m、深さは約0.3m～0.5mで、南側に向かって深くなる傾向がある。周溝底面の形状はU字形である。方台部の盛土、埋葬施設及びブリッジは確認できなかった。

遺物 大型の赤彩された複合口縁壺(60)が周溝底から出土した。残存高84.3cm、最大径64.6cm、口縁部直径36cm、底部直径29.5cmである。出土状況は、土器の頸部に打ち欠いた口縁部を横位に乗せた状態であられた。胴部は土圧によってか、胴部上半が胴部下半を上から覆う入れ子状で出土した。また、打ち欠いた口縁部の一部が肩部から落下し、一部は入れ子状となった胴部の隙間から出土した。底部は出土しなかったが、断面観察をしたところ、焼成後に穿孔したものと思われる。土器内は周溝の覆土と同様の砂質の土(暗褐色土)が隙間なく詰まっていた。目視での確認だが、人骨等は出土していない。溝底を掘り込んで埋設した様子や、溝が埋没途中の段階で溝内を掘り込んで土器を置いた形跡は見受けられなかった。出土時の土層断面を観察した結果、地山と少量の暗褐色土が混ざっている部分に壺が置かれていたことから、周溝が埋没をはじめた直後の段階で土器を周溝内に設置し、埋没していったものと思われる。

遺構時期 古墳時代初頭

## 第4節 溝

溝は調査区の東西でそれぞれ3条ずつ、計6条検出された。2号溝、3号溝、6～8号溝は欠番である。

### 1号溝(遺構:第5図)

調査区西端から1号住居跡、1号・2号・5号の各周溝墓を切り、44号土坑に切られる。5号周溝墓付近で調査区外へ伸長する。検出部分の長さは、東西約27m。幅は約0.7m～0.8m。底はU字形を呈する。44号土坑から土師質土器(第35図-61～64)が出土しているため、平安時代後期以前に属する溝と思われる。遺物は古墳時代初頭の土器片から土師質土器片など、いずれも小片が出土した。

### 4号溝(遺構:第7図)

調査区中央に位置し、3号住居跡を切って南北にはしる。検出部分の長さは、調査区幅と同様の約6m。幅は約0.4m～0.5mをはかる。底はV字形を呈する部分とU字形を呈する部分がある。出土遺物は土器小片数点のみで、時期の特定には至らなかったが、3号住居跡を切ることから、弥生時代後期末葉以降に属する。

### 5号溝(遺構:第21図)

調査区中央に位置し、南北にはしる。14号土坑、75号土坑、1号溝状遺構に切られる。検出部分の長さは、南北約4.1m。幅は約0.6m～1mをはかる。底はU字形を呈する。出土遺物は土器片1点のみ。時期は不明。

### 9号溝(遺構:第27図 遺物:第35図)

調査区東側に位置し、北東から南東にかけてはしる。遺構検出面は基本土層(調査区東側)の第5層(黒褐色土)。遺存部分の長さは、調査区南壁まで達していると想定すると約7.3m。幅は約0.7m～1.4mと一定しない。底は皿状を呈する。覆土は小礫や雲母を含み、砂質のふい黄褐色土である。しまりはやや弱い。出土遺物は砥石(66)、柱状高台をもつ土師質土器片などが出土していることから、平安時代後期以降に帰属すると思われる。

### 10号溝(遺構:第27図)

調査区東側に位置し、南北にはしる。遺構検出面は9号溝同様、第5層である。検出部分の長さは、東西約5.7m。幅は約0.3m～0.5mをはかる。底は浅いU字・V字を呈する。覆土は9号溝同様、小礫や雲母を含み、砂質



のふい黄褐色土である。しまりはやや弱い。遺物は土師質土器片が出土している。遺構の時期は平安時代後期以降だと思われる。

#### 11号溝（遺構：第27図）

調査区東側に位置し、南北にはしる。遺構検出面は、9号溝、10号溝と同様第5層である。検出部分は調査区幅とほぼ同じ約6m、幅は0.5m～0.9mと一定しない。覆土は9・11号溝同様、小礫や雲母を含み、砂質のふい黄褐色土である。しまりはやや弱い。底は浅いU字形を呈する。遺物は土器小片2点のみで、時期を特定するには至らなかった。

## 第5節 竪穴状遺構

竪穴状遺構は合計で9基検出された。2号竪穴状遺構、7号竪穴状遺構、9号竪穴状遺構は欠番となる。1号石積壁竪穴状遺構も、便宜上ここに記載する。

#### 1号竪穴状遺構（遺構：第15図）

調査区西側南壁に接し、1号周溝墓を切る。遺構の大半は調査区外へと拡がるため、残存する部分の長軸約1.6m、短軸約0.5mである。遺物は出土していない。1号周溝墓を切ることから、遺構時期は古墳時代初頭以降であろう。

#### 3号竪穴状遺構（遺構：第22図）

調査区中央北壁に接し、ほとんどは調査区外へと拡がる。検出部分の長軸約2.6m、短軸約0.5mである。出土遺物なし。時期不明。

#### 4号竪穴状遺構（遺構：第17図）

調査区中央南壁に接し、4号周溝墓を切る。遺構の大半は調査区外へと伸びる。遺存部の長軸は約4.9m、短軸は約0.6mである。遺物は土師器小片4点のみであった。4号周溝墓を切っていることから、遺構時期は古墳時代初頭以降と思われる。

#### 5号竪穴状遺構（遺構：第17図）

調査区中央南壁と接し、4号周溝墓を切る。遺構の大半は調査区外へと伸びる。遺存部の長軸は約2.9m、短軸は約1.1mである。遺物は土師器片数点（うち1点須恵器）、水晶片であった。遺構の時期は4号竪穴状遺構と同様と思われる。

#### 6号竪穴状遺構（遺構：第22図）

調査区中央北壁、3号周溝墓の周溝内に位置する。遺構の大半は調査区外となる。遺存部の長軸は約3.8m、短軸は約0.7mである。出土遺物はなし。時期不明。

#### 8号竪穴状遺構（遺構：第23図）

調査区東側北壁と接する。調査区北壁と接するため、大半は調査区外となる。遺存部の長軸は約3.3m、短軸は約1.6mである。出土遺物は縄文土器片2点、土師器片数点に和釘と思われる金属製品が出土した。時期は不明である。

#### 10号竪穴状遺構（遺構：第23図 遺物：第31図）

調査区中央北壁と接するため、調査区外へと拡がる。遺存部の長軸は約4m、短軸は約2.3mである。出土遺

物は赤彩された小型台付甕(36)、高環の環身が部分的に出土した。時期は古墳時代初頭とした。

#### 11号竪穴状遺構(遺構:第23図)

調査区中央南壁と接し、大半は調査区外となる。検出された部分の長軸は約4.1m、短軸は約0.5mである。出土遺物は土師器片数点と甕の口縁部片が出土した。時期不明。

#### 12号竪穴状遺構(遺構:第23図)

調査区東側東壁と接し、調査区外へと拡がる。検出された部分の長軸約2.9m、短軸約0.6mである。出土遺物は柱状高台を持つ土師質土器片が出土している。時期は平安時代後期以降と思われる。

#### 1号石積壁竪穴状遺構(遺構:第22図 遺物:第31図)

調査区中央、3号周溝墓を切る形で検出された。長軸約4.1m、短軸約2.9mをはかる。検出面から銭貨(写真図版16-70)が出土し、検出面から10cmほど掘削した上層から、青磁片(35)が出土した。石積は竪穴状遺構の北壁に沿う形で検出された。北壁と東壁が接するコーナー部分では、わずかに東壁部分にも石積がまわる様子が看取できた。床と思われる面は、ほぼ全面が硬化面と化していた。遺構の時期は、3号周溝墓との重複関係から古墳時代初頭以降であることは間違いないが、時期の特定にはいたっていない。

## 第6節 土坑 ピット

土坑は全部で73基、ピットは28基(内、1ヶ所無名ピット)が確認された。以下に観察表をあげる。

第1表 土坑・集石土坑観察表

遺構名	規模 (cm)			平面形状	備 考
	長 径	短 径	最大深度		
1号土坑	98	50	12	楕円形	南側部分は調査区外
2号土坑	60	43	25	円形	2号周溝墓に切られる
3号土坑	75	57	32	隅丸方形	北側部分は調査区外 土坑南端に空洞あり
4号土坑	68	61	43	隅丸方形	北側部分は調査区外
5号土坑	76	63	20	不整形	
6号土坑	72	70	33	隅丸方形	北側部分は調査区外
7号土坑	68	45	25	不整形	
8号土坑	158	110	26	楕円形	
9号土坑	118	80	40	隅丸方形	2m大の水晶出土
10号土坑	56	40	14	楕円形	
11号土坑	80	81	20	円形	
12号土坑	90	84	22	不整形	
13号土坑	90	86	25	円形	
14号土坑	104	100	65	円形	
15号土坑	118	115	45	円形	
16号土坑	69	68	53	円形	ハケ目のある土器小片出土
17号土坑	66	63	37	円形	
18号土坑	140	86	35	隅丸長方形	
19号土坑	84	60	34	隅丸方形	
20号土坑	58	40	38	隅丸方形	
21号土坑	88	71	17	円形	
22号土坑	118	105	48	円形	23号土坑との境界不明瞭
23号土坑	134	106	44	やや不整形	土師質土器小片が数点出土
24号土坑	86	78	56	円形	赤彩された土器小片が出土
25号土坑	94	81	18	円形	4号周溝墓検出面で遺構確認 台付甕脚小片出土
26号土坑	72	66	55	円形	49号土坑を切る
27号土坑	115	50	42	円形か	北側部分は調査区外

28号土坑	126	105	44	円形	18号土坑に切られて75号土坑を切る
29号土坑	—	—	—	—	欠番
30号土坑	85	34	35	円形か	北側部分は調査区外
31号土坑	86	78	17	円形	
32号土坑	114	75	22	楕円形	
33号土坑	244	132	53	隅丸長方形	42号土坑を切る 土師質土器小片、須恵器小片1点出土
34号土坑	133	128	47	円形	35号土坑を切る
35号土坑	130	70	26	円形	34号土坑に切られる 土師質土器小片が出土
36号土坑	117	111	28	円形	
37号土坑	210	86	33	楕円形	41号土坑と重複するが境界不明瞭
38号土坑	59	43	26	円形	
39号土坑	210	128	56	隅丸長方形	4号周溝墓と6号周溝墓を切る 赤彩された土器、キズミ口縁等の小片が出土しているが6周の遺物である
40号土坑	104	102	45	隅丸長方形か	42号土坑に切られる 土師質土器小片出土
41号土坑	120	60	26	楕円形	37号土坑と重複するが境界不明瞭 内面に踵軸された土器片が出土
42号土坑	126	124	35	隅丸方形	33号土坑に切られ40号土坑を切る
43号土坑	62	58	39	円形	2号住居内
44号土坑	118	105	41	隅丸長方形か	1号溝を切る 土師質土器(第35図-61～64)が、土坑東壁際からまもって出土
45号土坑	102	99	24	円形	
46号土坑	76	58	55	隅丸方形	漆織式土器、赤彩された土器の各小片出土
47号土坑	145	122	20	隅丸方形	ハケ目のある土器小片出土
48号土坑	100	85	18	円形	南側部分は調査区外 胎土白色、内外面横ナゲ調整の土器片出土
49号土坑	(173)	102	51	隅丸長方形	南側部分は調査区外 3号周溝墓を切る
50号土坑	107	95	18	円形	赤彩された土器小片が1点出土
51号土坑	66	60	27	円形	赤彩された土器(内側ハケ目あり)小片が1点出土
52号土坑	122	113	55	不整形	4号周溝墓を切る 外面ハケ目のある土器片、赤彩された土器片出土
53号土坑	113	94	26	円形	54号土坑に切られる
54号土坑	138	102	35	隅丸長方形	南側部分は調査区外 53号土坑を切る 内外面に赤彩が施された土器小片出土
55号土坑	122	104	24	円形か	南側部分は調査区外 赤彩あり ハケ目
56号土坑	97	64	21	隅丸方形	
57号土坑	105	54	19	隅丸長方形	灰輪陶器片出土
58号土坑	54	40	35	不整形	
59号土坑	56	49	17	円形	
60号土坑	80	68	25	円形	
61号土坑	—	—	—	—	欠番
62号土坑	116	84	32	隅丸方形	ハケ目のある土器小片出土
63号土坑	77	65	34	円形	4号住居床面で検出
64号土坑	102	42	17	楕円形	65号土坑を切る
65号土坑	170	78	25	隅丸方形	64号土坑に切られる 土師質土器小片出土
66号土坑	144	115	19	楕円形	
67号土坑	105	100	38	円形	5号住居内
68号土坑	— (97)	40		(隅丸長方形か)	3号周溝墓を切る セクション図のみ
69号土坑	84	65	52	円形	6号住居内 土師質土器小皿、羽釜片出土
70号土坑	54	50	23	円形	12号住居内 土師質土器坏片出土
71号土坑	54	42	28	円形	10号住居内
72号土坑	74	64	35	円形	6号住居内 69号土坑出土の羽釜片と胎土が類似した土器片出土
73号土坑	35	33	24	円形	9号住居内
74号土坑	64	60	32	円形	9号住居内
75号土坑	(290)	112	24	隅丸長方形	28号と重複するが、境界不明瞭
1号集石土坑	124	50	30	隅丸方形か	羽釜片と思われる土器片出土
2号集石土坑	146	100	62	楕円形か	台付甕脚部片出土

ピットの覆土は以下の通りである。

10Y R 2 / 2 黒褐色 粘性あり しまりあり 1mm大の白色粒子を少量含むm 5mm大の小礫を微量に含む。  
また、Pit-5～24、26は基本土層(調査区東側)の第5層で検出された。

第2表 ビット観察表

遺構名	規 模 (cm)			備 考
	長径	短径	深さ	
Pit-1	44	36	23	
Pit-2	—	—	—	欠番
Pit-3	44	40	31	1号周溝墓の周溝内で検出
Pit-4	20	18	24	1号周溝墓の周溝内で検出
Pit-5	33	30	25	
Pit-6	30	26	16	底に扁平な礫あり
Pit-7	55	47	26	甕口縁部小片出土
Pit-8	32	29	22	
Pit-9	33	29	19	
Pit-10	34	30	12	底に扁平な礫あり
Pit-11	33	31	19	
Pit-12	35	35	15	
Pit-13	31	30	34	
Pit-14	40	38	16	
Pit-15	36	24	20	
Pit-16	46	36	12	底に扁平な礫あり
Pit-17	30	24	16	
Pit-18	40	34	32	62号土坑と重複する
Pit-19	38	30	20	
Pit-20	44	38	19	土師質小皿破片出土
Pit-21	32	22	16	
Pit-22	28	26	24	
Pit-23	40	38	25	9号溝を切る
Pit-24	40	36	20	9号溝を切る
Pit-25	38	30	(記録なし)	5号住居跡床面で検出
Pit-26	26	22	(記録なし)	9号溝下層で検出 棒状浮文のついた土器小片が出土
Pit-27	—	—	—	欠番
Pit-28	44	36	(記録なし)	5号住居跡床面で検出

## 第7節 その他の遺構

### 集石遺構 (遺構：第26図)

調査区中央に位置する。検出範囲は長軸約3.3m、短軸2.9m、深度は約0.3mであった。出土遺物は礫の間隙から、縄文土器、土師器などの小片が10点ほど出土した。時期や性格は不明。

### 1号溝状遺構 (遺構：第21図)

調査区中央に位置し、5号溝、3号周溝墓を切る。9号住居跡をわずかに切る。検出された部分の長さ約5.5m、幅は約0.7m～1.3mと一定しない。底はU字形を呈する。遺物は弥生時代後期末葉から古墳時代初頭にかけての土器片が出土しているが、3号周溝墓との新旧関係から、遺構時期は古墳時代初頭以降だと思われる。

### 落ち込み (遺構：第11図 遺物：第35図)

調査区西側に位置し、上層を9号溝に切られ、7号住居跡、9号住居跡を切る。検出された部分の長軸約4.6m、幅は約3m。落ち込みの上層からは土師器片や土師質土器片が出土し、下層からはキザミ口縁破片、器台破片などが出土している。落ち込みの立ち上がりから、完形の小型壺(65)が伏せた状態出土した。口縁部付近は焼土と見紛う鮮やかな赤色が散っていた。実測図には内面の表記がないが、赤色物質が詰まっていたため、あえて実測をしていない。壺の形や重複する遺構との関係から、落ち込みは古墳時代前期に属する遺構とした。

## 第4章 自然科学分析

### 第1節 松ノ尾遺跡出土大型赤彩壺の科学調査

#### 1. はじめに

松ノ尾遺跡は弥生時代末期から古墳時代初期、および平安時代の遺構を中心とした複合遺跡である。第15次調査において、古墳時代初期の周溝墓より、大型の赤彩壺（第34図-60）が出土した。今回この大型赤彩壺に施された赤色顔料の分析を行い、同定を行った。

#### 2. 分析試料と分析方法

大型赤彩壺表面から剥離した破片を分析試料とした。赤色顔料の同定のための元素組成分析に①エネルギー分散型蛍光X線分析装置（エスアイアイ・ナノテクノロジー（株）製SEA5230HTW）、結晶構造同定に②X線回折装置（RIGAKU製X-RAY DIFFRACTOMETER Rint-UltimaIII、Rigaku Data Analysis Software PDXL2）を用いた。試料は蛍光X線分析の際は炭素台の上に、X線回折分析の際はスライドガラスの上に置き測定を行った。

#### 3. 分析結果と考察

蛍光X線分析（①）では破片試料の表側の赤色部と裏側の茶色部から鉄（Fe）が検出されたが、表側の赤色面のほうが強度が高く検出された（図1）。また、X線回折分析（②）では表側の赤色面より赤鉄鉱(hematite [Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>])と石英(quartz [SiO<sub>2</sub>])、その他ケイ酸塩鉱物が検出された（図2）。

古墳時代の赤色顔料はベンガラ（赤鉄鉱、 $\alpha$ -Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）または、朱（硫化水銀、HgS）が知られているが、赤鉄鉱が検出されたことから赤色顔料はベンガラであると考えられる。その他、検出された石英（SiO<sub>2</sub>）やケイ酸塩鉱物は胎土の成分であると考えられる。ベンガラは、旧石器時代の台石などへの付着が確認されており、縄文時代以降は土器顔料としての利用が知られている。同じ赤色でも、ベンガラと朱は使用場面によって使い分けられている例があり、今回の大型赤彩壺でのベンガラの使用例は、当時のこの地域における流通や、人々の観念を知る手がかりとなる。

X線回折分析に協力いただいた、東京藝術大学の桐野文良教授、村上夏希氏に感謝いたします。

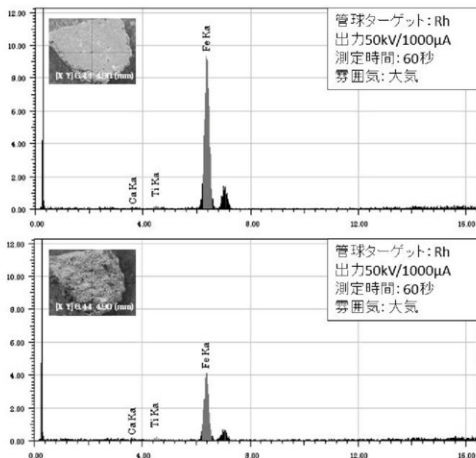


図1 赤彩壺表面破片の表側（上）と裏側（下）の蛍光X線スペクトル

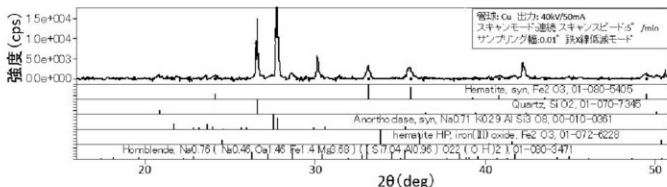


図2 赤彩壺表面のX線回折スペクトル

## 第2節 松ノ尾遺跡出土土師器壺内の赤色物質の科学調査

### 1. はじめに

松ノ尾遺跡は弥生時代末期から古墳時代初期、および平安時代の遺構を中心とした複合遺跡である。第15次調査において、古墳時代前期の区域より、土師器（第54図-67 臥位で出土）と土師器口縁部周囲に赤色顔料のような粉状の物質が見つかった。今回の赤色物質の分析を行い、同定を行った。また、X線撮影をおこない土師器内の状態の把握を行った。

### 2. 分析試料と分析方法

土師器内の赤色物質と土を、スパチュラを用いてサンプリングを行った（図1）。赤色物質の同定のための元素組成分析に①エネルギー分散型蛍光X線分析装置（エスアイアイ・ナノテクノロジー（株）製SEA5230HTW）、結晶構造同定に②X線回折装置（RIGAKU製X-RAY DIFFRACTOMETER Rint-UltimaIII、Rigaku Data Analysis Software PDXL2）を、粒子の形態観察に③光学顕微鏡（顕微鏡ZEISS 製Axio Imager MAT、撮影OLYMPUS製DP70）、④電子顕微鏡（FEI 製Quanta 600）を用いた。また、土師器内の状態の把握のためのX線撮影に⑤X線撮影装置（エクスロン・インターナショナル（株）製）を用いた。蛍光X線分析の際は炭素テープの上に、X線回折分析の際はスライドガラスの上に試料を置き測定を行った。

### 3. 分析結果と考察

#### 3-1 赤色物質の同定

蛍光X線分析（①）では土師器内赤色物質と土の両方から鉄（Fe）が検出されたが、赤色物質のほうが強度が高く検出された（図2）。また、赤色物質では鉄の他に微量のマンガン（Mn）、チタン（Ti）が検出された。赤色物質のX線回折分析（②）では赤鉄鉱（hematite [Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>]）と石英（quartz [SiO<sub>2</sub>]）が検出された（図3）。古墳時代の赤色顔料はベンガラ（赤鉄鉱、α-Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>）または、朱（硫化水銀、HgS）が知られている。今回、赤鉄鉱が検出されたことから赤色物質はベンガラであると考えられる。赤色物質から検出された石英（SiO<sub>2</sub>）は土の成分であり、元素分析で検出されたマンガン（Mn）とチタン（Ti）は、ベンガラか土に含まれる微量成分由来であると考えられる。

#### 3-2 赤色物質の粒子の形態観察

光学顕微鏡（③）観察によって、細長い粒子が約10～100μm程度の細長い赤色の粒子が確認された（図4）。また、電子顕微鏡（④）観察によってパイプ状の粒子が凝集している様子が観察された（図5）。直径約1.5～2μm、長さ約10～20μmであった。

ベンガラは3種の粒子（パイプ状、らせん状、不定形）の存在が知られている。パイプ状、らせん状のものは

沼沢地において微生物が生成した鉄沈殿物（赤褐色～茶褐色）を焼成し得られたものと考えられ、特にパイプ状ベンガラは、鉄細菌*Leptothrix*の鞘と考えられている（岡田1997）。不定形の原料は不明であるが、特徴的な形態の粒子を持たない点から、褐鉄鉱や赤鉄鉱、磁赤鉄鉱、磁鉄鉱などの鉄鉱石が原料となったと考えられている（志賀2015）。近年、時代や地域によるベンガラ粒子の形や大きさに違いがみられるかの研究が進められており、本報告は考察材料のひとつとなりうる。もし、時代や地域で違いが見られるのであれば、当時のこの地域の流通を知る手がかりとなりうる。

### 3-3 土師器のX線撮影

X線撮影（⑤）によって、土師器の中に空洞が確認された（図6）。今後、乾燥や振動により、土師器上部の砂が下部に落ち込む可能性が考えられ、取扱いに注意が必要である。

X線回折分析に協力いただいた、東京藝術大学の桐野文良教授、村上夏希氏に感謝いたします。

#### 引用文献

- ・岡田文男（1997）「パイプ状ベンガラの粒子の復原」、日本文化財科学会第14回大会研究発表要旨集
- ・志賀智史（2015）「ベンガラの形態からみた北関東の前期古墳出土の丹塗土器について」、日本文化財科学会第32回大会研究発表要旨集

（山梨県立博物館 西願 麻以）



図1 赤色物質のサンプリング場所

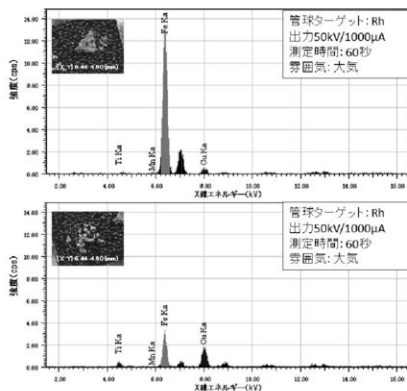


図2 土師器内の赤色物質(上)と土(下)の蛍光X線スペクトル

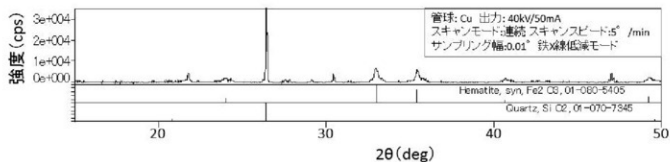


図3 赤色物質のX線回折スペクトル

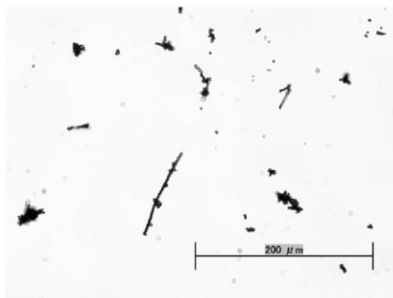


図4 赤色物質の光学顕微鏡画像



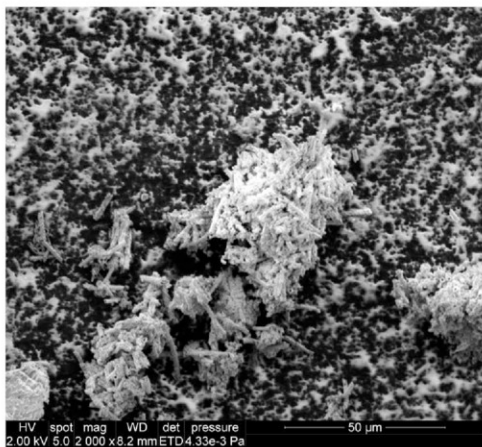


図5 赤色物質の電子顕微鏡画像

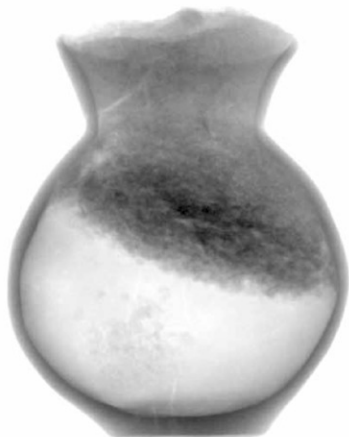


図6 土師器内のX線透過撮影画像（図1と同方向から撮影）

## 第5章 まとめ

今次調査で確認された遺構をまとめると、以下のようになる。

住居跡	11軒	溝	6条
弥生末葉	2住、3住	竪穴状遺構	9基
古墳初頭	5住、9住	石積壁竪穴状遺構	1基
古墳初頭以前	7住、11住	土坑	73基
古墳初頭		ピット	28基
～平安後期以前	10住	集石土坑	2基
平安後期	1住、6住、12住	集石遺構	1基
平安後期以降	4住	溝状遺構	1条
周溝墓		落ち込み	1基
古墳時代初頭	6基		

調査区が東西に細長いため、遺跡が立地するいわゆる「東の微高地」上に大規模な東西トレンチを入れる形となり、微高地上の詳細な地形や遺構の分布状況を詳細に知ることができた。その結果、調査区は全体を通してみると西から東へゆるやかに傾斜しているものの、9～11号溝や9号住居跡が検出された付近でわずかに落ち込み、再び東へと傾斜が続いていた。遺構の分布も、調査区内で標高の高い西側に周溝墓が立地し、標高の低い東側で複数の住居跡が検出されるという、大まかな特徴がみられた。また、今次調査において大きな発見は、松ノ尾遺跡ではじめて周溝墓が確認され、周溝内から大型赤彩壺（第34図-60）が出土したことであろう。

つづいて、時代ごとに調査の概観を行いたい。遺構の時期は、基本的には『山梨県史 資料編2』の各時代の土器編年を参考にしている。しかし、弥生時代後期末葉から古墳時代初頭にかけては、中山編年（1999）と小林編年（2015）を参考にし、さらに中山氏、小林氏が所属する山梨弥生文化研究会に学術的助言をいただいた。その結果、本報告では中山編年の6期に該当する遺物は、古墳時代初頭（最初頭）に位置するものとして報告を行っていることをご承知願いたい。

まず、弥生時代後期末葉の遺構について述べる。2号住居跡・3号住居跡は、自然埋没した2号住居跡を5号周溝墓が切っていることから、多少の時期差があると結論づけ、弥生時代後期末葉とした。近接する3号住居跡も含め、住居跡が埋没したのちに、周辺を墓域として利用していると思われる。

次に、古墳時代初頭の遺構について述べる。周溝墓と同時期である古墳時代初頭の集落として考えられるのは、調査区東側の5号住居跡、9号住居跡である。これらのことから、標高のやや高い調査区西側を墓域として利用し、やや低い調査区東側で集落を営んでいたのであろう。墓域の範囲に関しては、隣接する三味堂遺跡の第1次調査（現在はマンションとなっている）では、周溝墓や周溝と思しき溝が検出されておらず、また弥生時代後期末葉から古墳時代初頭にかけての遺構・遺物も確認されていないことから、調査区西側の御嶽道沿いの小河川が、今次調査で検出された墓域の西端となっている可能性がある。また、松ノ尾遺跡第8次調査で検出された1号溝状遺構は、溝全体の調査はできなかったものの、深さなどから今次調査において検出された周溝墓の溝と類似しており、墓域は調査区の南側に拡がっていたと思われる。それは2号周溝墓が調査区南壁外へと伸長していることから、うかがい知ることができる。

周溝墓は、1号周溝墓の東側周溝と5号周溝墓の西側周溝部分で、互いの溝がつながっている様子がうかがえた以外、周溝同士が重複関係にあたる箇所は確認できなかった。6号周溝墓は、他の周溝墓に比べて周溝が部分的にしか検出されていないものの、周溝に近接する10号竪穴状遺構から、同時期の小型台付甕（第31図-36）が出土している。このことから、若干短絡的ではあるが、10号竪穴状遺構が6号周溝墓の周溝であった可能性も

考えられることを提言したい。複合口縁を持つ大型赤彩壺は、口縁部を故意に打ち欠いて肩部に乗せている出土状況や、焼成後に底部穿孔がなされていることから、葬送儀礼や祭祀に用いた土器であることが推定される。土器形式に関しては、静岡県東部地域（駿東）の大廓式土器の影響が見られる。また、土器内部の覆土の化学分析は今後の課題としたい。

最後に平安時代の遺構については、これまでの調査とほぼ同時期の住居跡が検出され、今次調査区も集落域であったことが判明した。ただし、本調査区の南に近接する第1次調査区内で検出された住居跡の軒数（15軒）に比べると少なく、今次調査で検出された住居跡は、第1次調査で検出された集落の縁辺にあたると思われる。

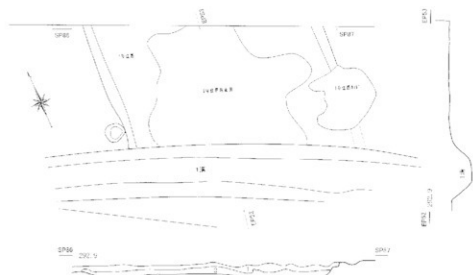
## おわりに

西の微高地に立地する金の尾遺跡は弥生時代後期が主要な時期であり、東の微高地に立地する松ノ尾遺跡で出土した土器様相は、金の尾遺跡よりも時期がわずかに新しく、古墳時代初頭に位置することが判明した。周辺の遺跡に目を向けてみると、荒川扇状地には、弥生時代後期から古墳時代にかけての遺跡が複数存在する。いずれも甲府市に所在する塩部遺跡、塚本遺跡、榎田遺跡、音羽遺跡などである。前述の金の尾遺跡も含め、時期はそれぞれ多少異なるものの、甲府盆地の北西部に集落や周溝墓が作られていたことが発掘調査の結果明らかになっている。遺跡ごとの集落に時期差がある理由は、現在のところ明確にはできないが、荒川が各時期にどこを流れていたかにも要因があると思われる。また、6世紀半ばに万寿森古墳や加牟那塚古墳などがつくられることを考えると、本遺跡を含めた荒川扇状地に立地する同時期の遺跡は、それらを造営することになる人々の端緒にあたるのではないかと。即断は避けるべきだが、ひとまずそうように結論づけたい。

また、今次調査で出土した複合口縁を持つ大型赤彩壺の背景には、大型の土器を作る技術や、それを作らせる権力を持った人々がいたことが考えられる。甲府盆地北西部の弥生時代・古代を考えていく上で、今回の調査成果が少しでも地域の歴史を解明していく手がかりとなることを期待したい。

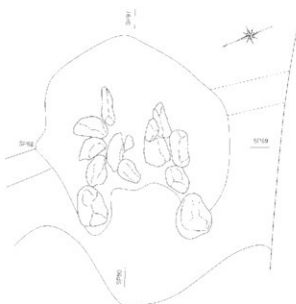
## 【参考文献】

- 櫛形町教育委員会ほか 1985 『六科丘遺跡』  
山梨県教育委員会ほか 1987 『金の尾遺跡 無名墳（きつね塚）』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第25集  
山梨県教育委員会 1991 『上の平遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第59集  
山梨県教育委員会ほか 1995 『榎田遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第105集  
山梨県教育委員会ほか 1997 『音羽遺跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第125集  
山梨県 1997 『山梨県史 資料編2 原始・古代2』  
明野村教育委員会ほか 2001 『大日川原遺跡』明野村文化財調査報告 13  
沼津市教育委員会ほか 2002 『沼津市史 資料編 考古』  
甲府市教育委員会ほか 2005 『塩部遺跡Ⅱ』甲府市文化財調査報告30  
甲斐市教育委員会 2004 『松ノ尾遺跡Ⅷ』敷島町文化財調査報告書 第16集  
甲斐市教育委員会 2005 『三昧堂遺跡』甲斐市文化財調査報告 第3集  
甲府市教育委員会ほか 2011 『塚本遺跡』甲府市文化財調査報告55  
甲斐市教育委員会 2012 『松ノ尾遺跡14』甲斐市文化財調査報告書 第19集  
小林健二「甲斐の古墳時代と土器 - 編年と移動を考える -」（山梨県考古学協会 2015 『山梨県考古学協会誌 第23号』）



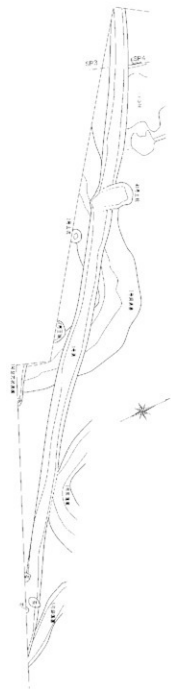
1. SP03の埋藏物 柱礎あり、土間あり、2m以内の自然積層を含む
2. SP03の埋藏物 柱礎あり、土間あり、1m以内の自然層を含む、1m～2m以内の硬い土(埋込)を剥き出し

0 (1:60) 2m



1. SP08の埋藏物 土間あり、柱礎あり、土間あり、埋藏物あり、土間あり
2. SP09の埋藏物 柱礎あり、土間あり、土間あり、埋藏物あり、土間あり
3. SP10の埋藏物 柱礎あり、土間あり、埋藏物あり、土間あり
4. SP11の埋藏物 柱礎あり、土間あり、埋藏物あり、土間あり
5. SP12の埋藏物 柱礎あり、土間あり、埋藏物あり、土間あり
6. SP13の埋藏物 柱礎あり、土間あり、埋藏物あり、土間あり
7. SP14の埋藏物 柱礎あり、土間あり、埋藏物あり、土間あり
8. SP15の埋藏物 柱礎あり、土間あり、埋藏物あり、土間あり
9. SP16の埋藏物 柱礎あり、土間あり、埋藏物あり、土間あり
10. SP17の埋藏物 柱礎あり、土間あり、埋藏物あり、土間あり

0 (1:20) 50cm



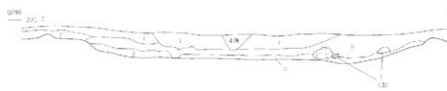
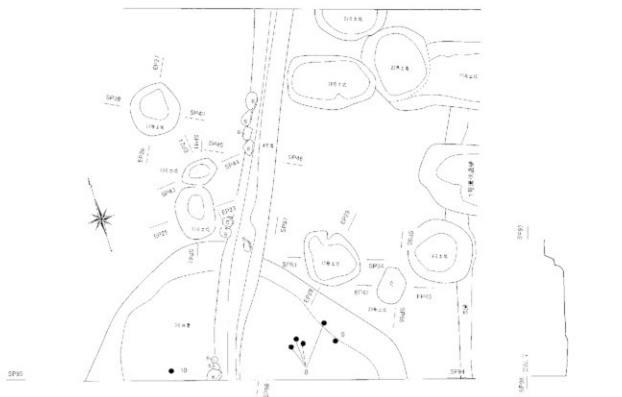
1号溝

1. SP32の埋藏物 柱礎あり、土間あり、埋藏物あり、土間あり
2. SP34の埋藏物 柱礎あり、土間あり、埋藏物あり、土間あり

0 (1:100) 4m

第5図 1号住居跡 1号住居跡カマド 1号溝



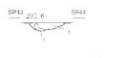


1. 10961-7/層色 粘りあり 土質軟く 10cm大の白磁製土器を含む。20cm大の褐色土(野山)層も少量含む。
2. 10920/3層褐色 粘りあり 土質軟く 10cm大の白磁製土器少量を含む。
3. 10940/4層褐色 粘りあり 土質軟く 10cm大の白磁製土器(土山)も少量を含む。
4. 10920/5層褐色 粘りあり 土質軟く 褐色土(野山)層も少量を含む。



4号溝

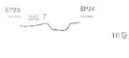
1. 10940/4層褐色 粘りあり 土質軟く 10cm大の白磁製土器を含む。



1. 10960/3層褐色 粘りあり 土質軟く 10cm大の白磁製土器を含む。
2. 10940/4層褐色 粘りあり 土質軟く 10cm大の白磁製土器を含む。



1. 10933/4層褐色 粘りあり 土質軟く 10cm大の白磁製土器(土山)も少量を含む。
2. 10940/4層褐色 粘りあり 土質軟く 10cm大の白磁製土器(土山)も少量を含む。



10号土坑



11号土坑



1. 10940/3層褐色 粘りあり 土質軟く 10cm大の白磁製土器を含む。



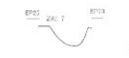
1. 10940/4層褐色 粘りあり 土質軟く 10cm大の白磁製土器(土山)も少量を含む。



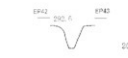
1. 10940/3層褐色 粘りあり 土質軟く 10cm大の白磁製土器(土山)も少量を含む。



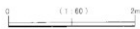
12号土坑



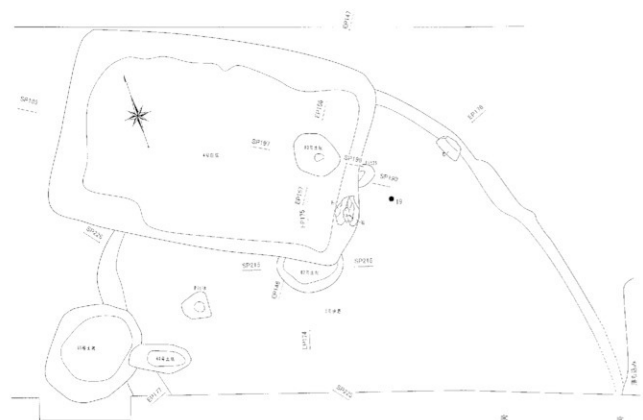
19号土坑



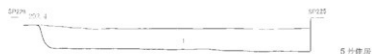
20号土坑



第7図 3号住居跡 4号溝 10~12、19、20号土坑



1. 101R/2層褐色 粘土製り 1.25m×2.00mの平面を有し、1.00mの深さの掘削に相当



1. 101C2/1層褐色 粘土製り 1.20m×2.00mの平面を有し、1.00mの深さの掘削に相当、1.00m×1.00mの平面を有し、褐色土(相山)を充填に相当



1. 101C2/1層褐色 粘土製り 1.20m×1.50mの平面を有し、1.00mの深さの掘削に相当



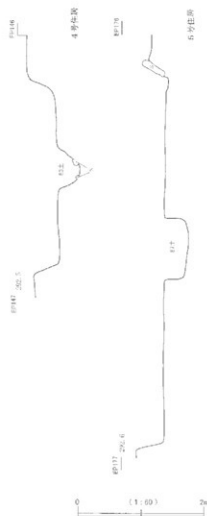
63号土坑



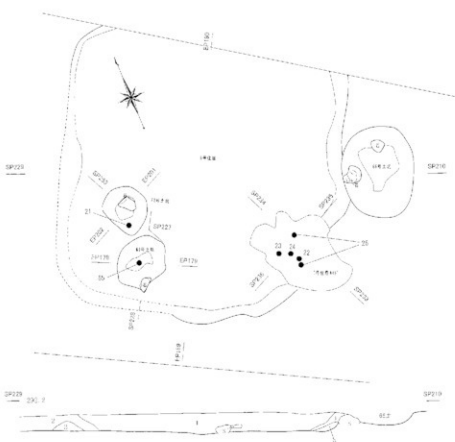
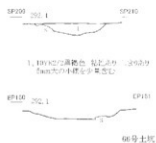
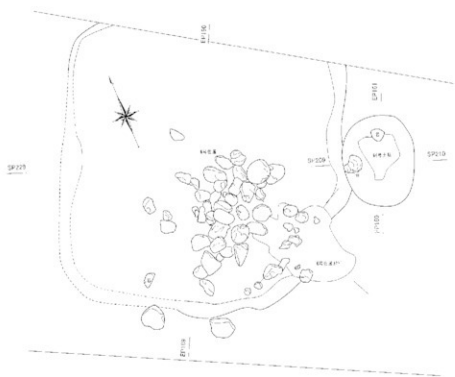
1. 101C2/1層褐色 粘土製り 1.20m×1.50mの平面を有し、1.00mの深さの掘削に相当  
 2. 101C2/1層褐色 粘土製り 1.20m×1.50mの平面を有し、1.00mの深さの掘削に相当  
 3. 2.00m×1.00mの平面を有し、1.00mの深さの掘削に相当  
 4. 1.00mの平面を有し、1.00mの深さの掘削に相当  
 5. 1.00mの平面を有し、1.00mの深さの掘削に相当



67号土坑



第8図 4号住居跡 5号住居跡 63、67号土坑

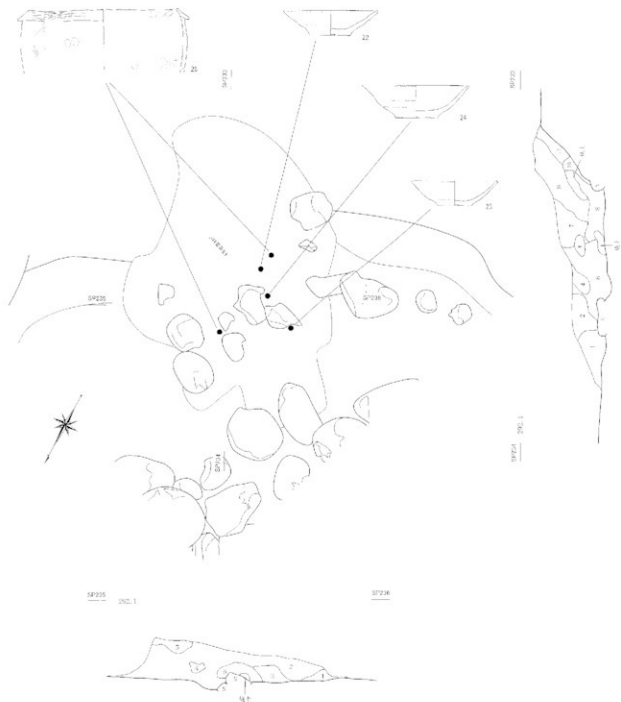


1. 1013Cに黒褐色の土質の小石が散らばり、10cmの白粉地を多量に含む。5cm~10cmの小塊が多量。
2. 1013Dの土質は、10cmの白粉地を多量に含む。5cm~10cmの小塊が多量。これに黄褐色土(1013E)を少量含む。
3. 1013Eは黒褐色の土質の小石が散らばり、10cmの白粉地を多量に含む。5cm~10cmの小塊が多量。
4. 1013Fは黒褐色の土質の小石が散らばり、10cmの白粉地を多量に含む。5cm~10cmの小塊が多量。これに黄褐色土(1013G)を少量含む。
5. 1013Gは黒褐色の土質の小石が散らばり、10cmの白粉地を多量に含む。5cm~10cmの小塊が多量。

第9図 6号住居跡 66、69、72号土坑

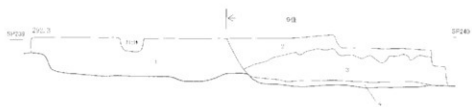
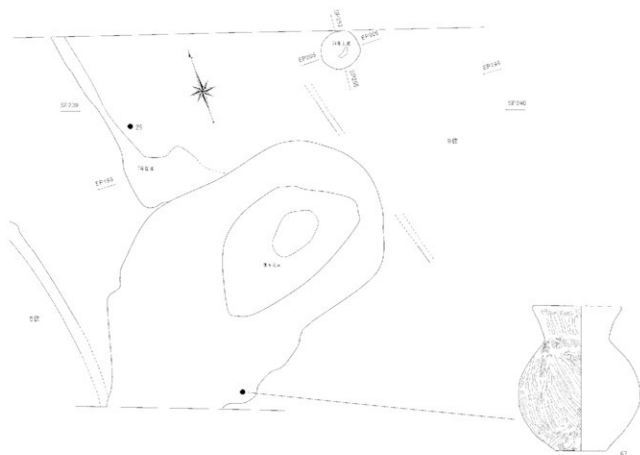






1. 2号坑の勾配階断面 階差あり。土質強い。1cm大の白磁片を多数、40個物を1cm大の黒土粒を少量含む。2cm大の黒土片(100%)を少量含む。
  2. 4号坑の勾配階断面 階差あり。1号坑断面に似る。1cm大の黒土粒を多数、3cm大の黒土粒を多数含む。2cm大の小粒を多数含む。
  3. 2号坑の断面 階差あり。土質強い。1cm大の黒土粒を多数、3cm大の黒土粒を少量含む。
  4. 10号坑の断面 階差あり。土質強い。
  5. 11号坑の断面 土質強い。階差あり。土質が硬軟に均一。
  6. 2号坑の断面断面 階差あり。土質強い。1cm大の黒土粒を多数含む。2cm大の小粒を少量含む。1号坑断面に似る。
  7. 2号坑の断面断面 階差あり。土質強い。1cm大の黒土粒、3cm大の黒土粒を少量含む。
  8. 11号坑の断面断面 階差あり。土質強い。1cm大の黒土粒を少量含む。2cm大の小粒を多数含む。
  9. 10号坑の断面断面 階差あり。土質強い。1cm大の黒土粒を少量含む。3cm大の黒土粒を多数含む。2cm大の黒土粒を多数含む。
  10. 13号坑の断面断面 階差あり。土質強い。
  11. 13号坑の断面断面 階差あり。土質強い。1cm大の黒土粒を多数含む。
- 図上、10号坑の断面断面

第10図 6号住居跡カマド



1. 100kgの土器の 残存物。土器の底は、直径Aの直径に等しい。100kgの土器の底は、直径Bの直径に等しい。
2. 100kgの土器の 残存物。土器の底は、直径Aの直径に等しい。100kgの土器の底は、直径Bの直径に等しい。
3. 100kgの土器の 残存物。土器の底は、直径Aの直径に等しい。100kgの土器の底は、直径Bの直径に等しい。
4. 100kgの土器の 残存物。土器の底は、直径Aの直径に等しい。100kgの土器の底は、直径Bの直径に等しい。

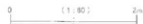


7号位器



1. 100kgの土器の 残存物。土器の底は、直径Aの直径に等しい。

74号土坑



第11図 7号住居跡 落ち込み 74号土坑



1. 10x10の黒褐色 砂土あり 1.25x0.5
2. 2層: 粘土質、UVIが伏し、植物あり 1.25x0.5
3. 10x10の黒色 粘土あり 1.25x0.5
4. 10x10の土褐色 植物あり 1.25x0.5 10cm次の白色粒を含み、30cm〜40cmの小骨の残片あり 30cm次の黒褐色土にUVIが多少量あり



1. 10x10の土褐色 砂土あり 1.25x0.5 10cm次の白色粒を少量含む



70号土坑 71号土坑



1. 10x10の黒褐色 粘土あり 1.25x0.5 10cm〜30cm次の植物の遺物あり



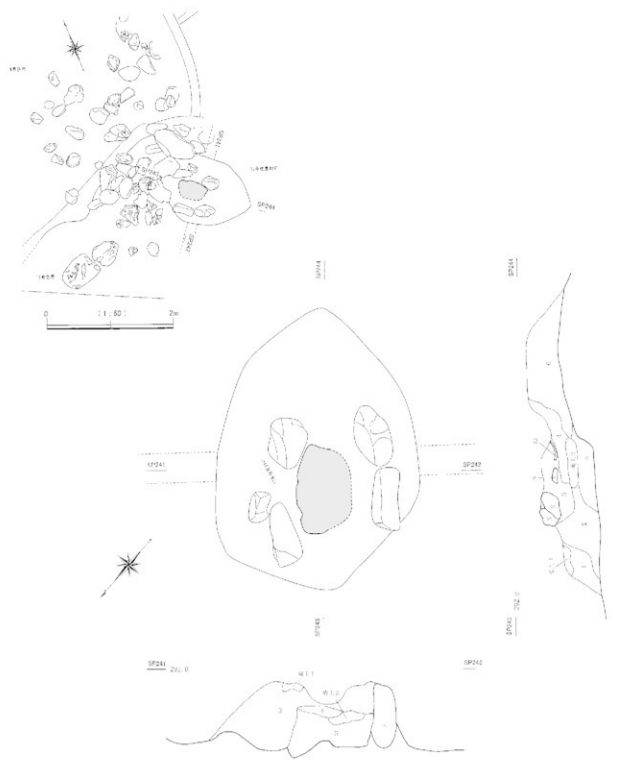
1. 10x10の黒褐色 粘土あり 1.25x0.5 植物土にUVIが伏しあり



73号土坑

第12図 9～12号住居跡 70、71、73号土坑

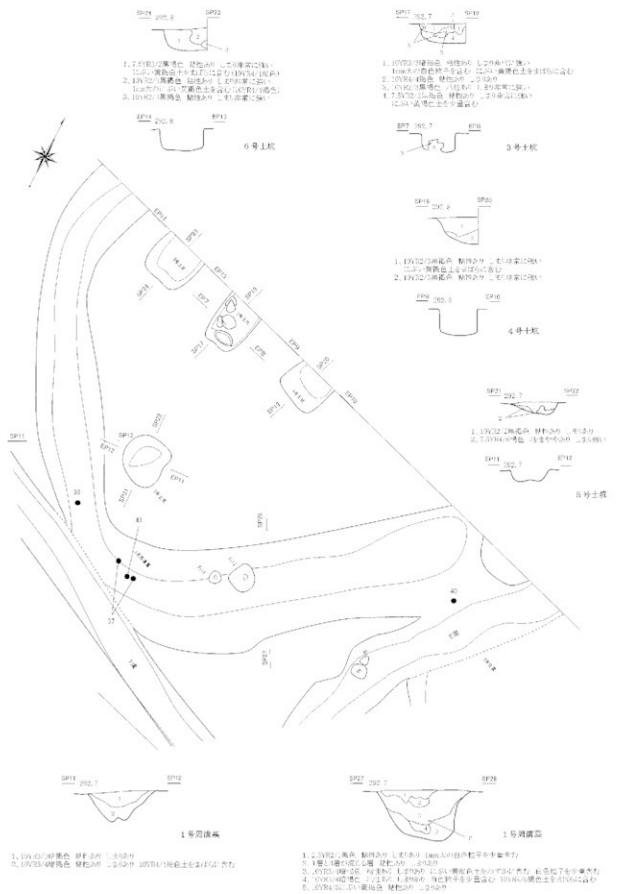




1. 7.05Mの2段目台 階段あり、土間あり
2. 3.03Mの土間層位 土間に約 1.40Mの 60cm×100cmの小石を敷き出す
3. 7.05Mの土間層位 階段あり、土間に約 1.40Mの60cm×100cmの小石を敷き出す
4. 7.05Mの土間層位 土間に約 1.40Mの 階上10cmあり、反斜の2段目(石灰色)土間あり
5. 7.05Mの土間層位 土間に約 1.40Mの 階上10cmあり、反斜の2段目(石灰色)土間あり
6. 3.03Mの土間層位 土間に約 1.40Mの 階上10cmあり、反斜の2段目(石灰色)土間あり
- 階上1.7.75Mの4段目 階段あり、土間あり
- 階下2.2.01Mの土間

0 (1:20) 50cm

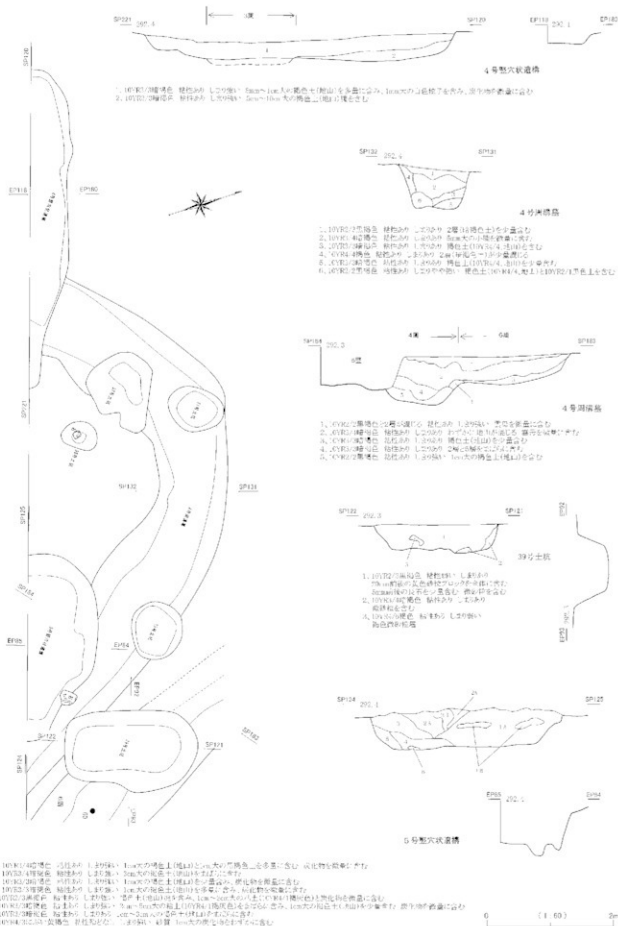
第13図 12号住居跡カマド



第14图 1号周溝墓 3~6号土坑





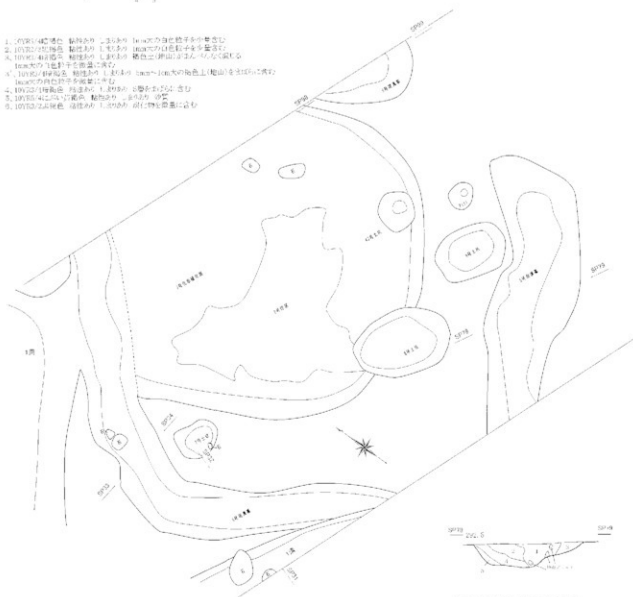


第17図 4号周溝墓 4、5号壑穴状遺構 39号土坑





1. 101831(2)暗褐色 粘粒多し、土中の Iron の白色鉄屑中量を含む。
2. 101832(1)灰褐色 粘粒多し、土中の Iron の白色鉄屑中量を含む。
3. 101833(4)暗褐色 粘粒多し、土中の Iron の白色鉄屑中量を含む。土中の黄褐色土中量も多量を含む。
4. 101834(1)暗褐色 粘粒多し、土中の Iron の白色鉄屑中量を含む。土中の黄褐色土中量も多量を含む。
5. 101835(4)暗褐色 粘粒多し、土中の Iron の白色鉄屑中量を含む。



1. 101831(2)暗褐色 粘粒多し、土中の Iron の白色鉄屑中量を含む。
2. 101832(1)暗褐色 粘粒多し、土中の Iron の白色鉄屑中量を含む。
3. 101833(4)暗褐色 粘粒多し、土中の Iron の白色鉄屑中量を含む。土中の黄褐色土中量も多量を含む。
4. 101834(1)暗褐色 粘粒多し、土中の Iron の白色鉄屑中量を含む。土中の黄褐色土中量も多量を含む。



1. 101831(2)暗褐色 粘粒多し、土中の Iron の白色鉄屑中量を含む。
2. 101832(1)暗褐色 粘粒多し、土中の Iron の白色鉄屑中量を含む。
3. 101833(4)暗褐色 粘粒多し、土中の Iron の白色鉄屑中量を含む。土中の黄褐色土中量も多量を含む。
4. 101834(1)暗褐色 粘粒多し、土中の Iron の白色鉄屑中量を含む。土中の黄褐色土中量も多量を含む。
5. 101835(4)暗褐色 粘粒多し、土中の Iron の白色鉄屑中量を含む。

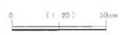
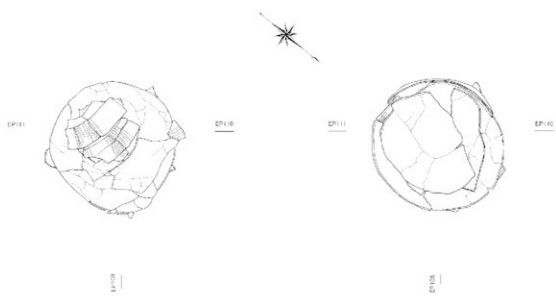
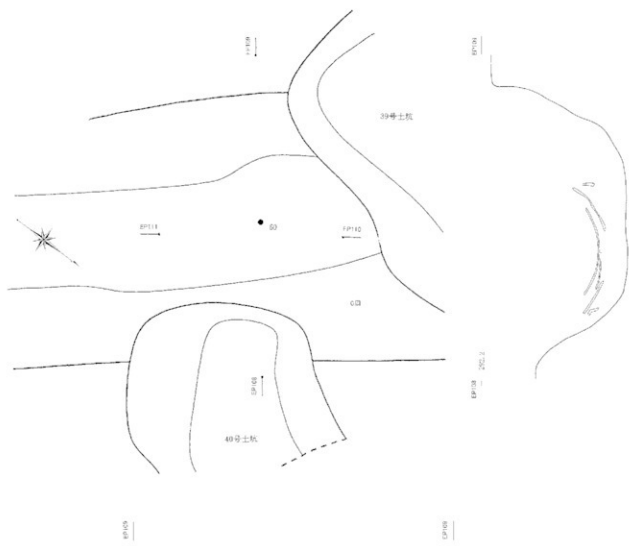


1. 101831(2)暗褐色 粘粒多し、土中の Iron の白色鉄屑中量を含む。
2. 101832(1)暗褐色 粘粒多し、土中の Iron の白色鉄屑中量を含む。
3. 101833(4)暗褐色 粘粒多し、土中の Iron の白色鉄屑中量を含む。土中の黄褐色土中量も多量を含む。
4. 101834(1)暗褐色 粘粒多し、土中の Iron の白色鉄屑中量を含む。土中の黄褐色土中量も多量を含む。
5. 101835(4)暗褐色 粘粒多し、土中の Iron の白色鉄屑中量を含む。
6. 101836(1)暗褐色 粘粒多し、土中の Iron の白色鉄屑中量を含む。
7. 101837(2)暗褐色 粘粒多し、土中の Iron の白色鉄屑中量を含む。
8. 101838(4)暗褐色 粘粒多し、土中の Iron の白色鉄屑中量を含む。土中の黄褐色土中量も多量を含む。

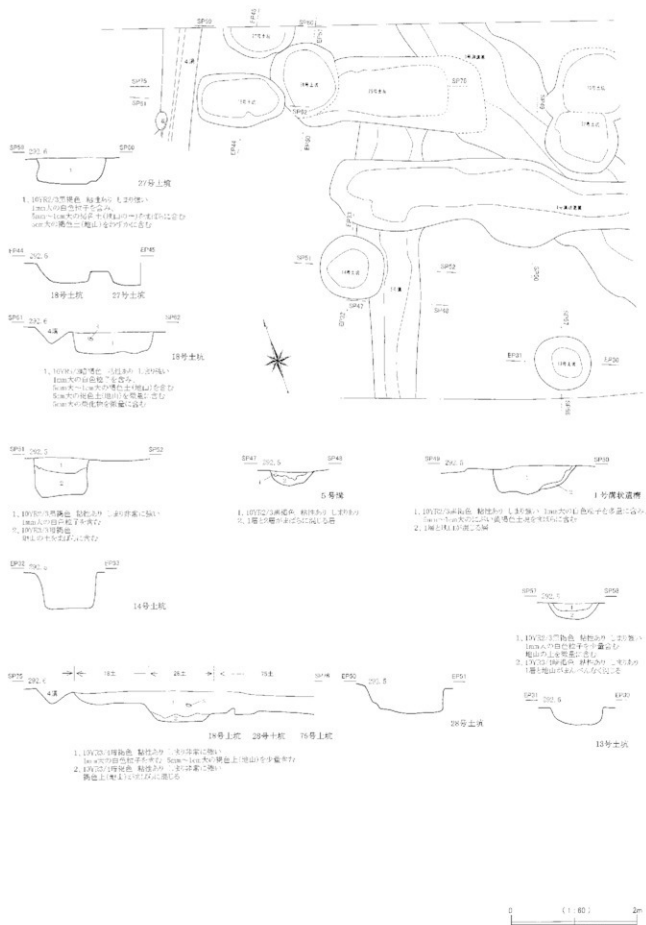


第18図 5号周溝墓

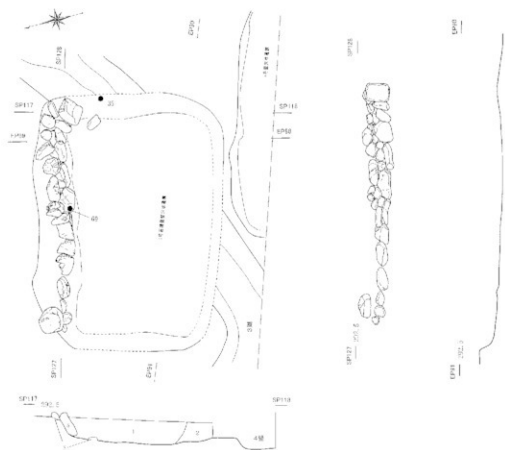




第20图 6号周溝墓 遺物実測図



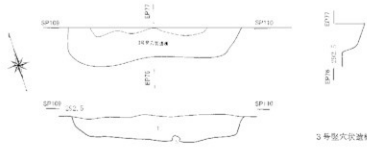
第21図 5号溝 1号溝状遺構 13、14、18、27、28、76号土坑



1. 10032の南側壁 壁石入り、土間あり 階段状を呈し、10m前後の横長矩形を形成し、5m前後の高さを呈している。西側、南側の壁石は並列に並ぶ。
2. 10032の北側壁 壁石入り、土間あり 10m前後の長方形の壁石が並ぶ。



1号石積壁穴状遺構



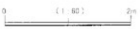
1. 10032の東側壁 土間あり、土間なし 1m、2mの2段の横長壁(1段山)を呈し、10m前後の高さを呈している。西側壁も並列に並ぶ。5m前後の高さを呈し、東側の壁石は並ぶ。

3号壁穴状遺構

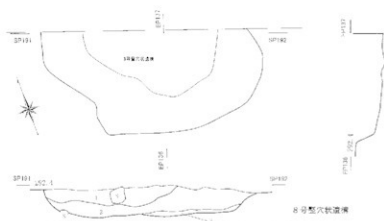


1. 10032の南側壁 土間あり、土間なし 10m前後の横長壁(1段山)を呈し、10m前後の高さを呈している。西側壁も並列に並ぶ。
2. 10032の北側壁 壁石入り、土間あり 10m前後の横長壁(1段山)を呈し、10m前後の高さを呈している。西側壁も並列に並ぶ。
3. 10032の東側壁 土間あり、土間なし 10m前後の横長壁(1段山)を呈し、10m前後の高さを呈している。西側壁も並列に並ぶ。
4. 10032の西側壁 土間あり、土間なし 10m前後の横長壁(1段山)を呈し、10m前後の高さを呈している。西側壁も並列に並ぶ。
5. 10032の南側壁 土間あり、土間なし 10m前後の横長壁(1段山)を呈し、10m前後の高さを呈している。西側壁も並列に並ぶ。

6号壁穴状遺構

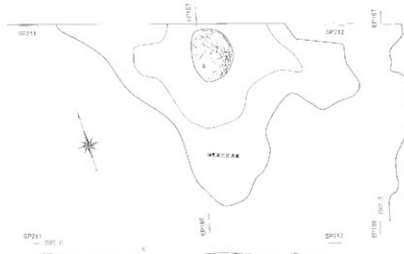


第22図 1号石積壁壁穴状遺構 3号、6号壁穴状遺構



8号竪穴状遺構

1. 19732の黒褐色 黏土片の二枚割、厚さ土(19794)を2.5cmに含む、1cm大の白色瓦片と5cm大の小鏡を散見し含む。
1. 19732の黒褐色 黏土片の二枚割、1cm大の白色瓦片と5cm大の小鏡を散見し含む。
1. 19732の黒褐色 黏土片の二枚割、土層は100cmの厚さ。



10号竪穴状遺構

1. 19732の黒褐色 黏土片の二枚割(厚さ) 1cm以下の白色瓦片、1cm大の小鏡を少量含む。
1. 19732の黒褐色 黏土片の二枚割、1cm大の白色瓦片と1cm大の小鏡を少量含む。
1. 19732の黒褐色 黏土片の二枚割、1cm大の白色瓦片と1cm大の小鏡を少量含む。



11号竪穴状遺構

1. 19732の黒褐色 黏土片の二枚割(厚さ) 1cm以下の白色瓦片を少量含む、1cm大の小鏡を少量含む。厚さ10cmの褐色土(埋土)を少量含む。
1. 19732の黒褐色 黏土片の二枚割(厚さ) 1cm以下の白色瓦片を少量含む、1cm大の小鏡を少量含む。



12号竪穴状遺構

1. 19732の黒褐色 黏土片の二枚割(厚さ) 1cm以下の白色瓦片を少量含む、1cm大の小鏡を少量含む。厚さ10cmの褐色土(埋土)を少量含む。
1. 19732の黒褐色 黏土片の二枚割(厚さ) 1cm以下の白色瓦片を少量含む、1cm大の小鏡を少量含む。
1. 19732の黒褐色 黏土片の二枚割(厚さ) 1cm以下の白色瓦片を少量含む、1cm大の小鏡を少量含む。

第23図 8号、10号～12号竪穴状遺構





1. 100%の黒褐色 粘粒あり 土砂物  
50cm以内の層に分布し、50cm-100cmの  
境界より約1/3の少量に分布し、層の厚さは約10cm



1. 100%の黒褐色 粘粒あり 土砂物  
10cm以内の層に分布し、  
50cm-100cmの境界より約1/3の少量に分布し、  
層の厚さは約10cm



1. 100%の黒褐色 粘粒あり 土砂物  
10cm以内の層に分布し、  
50cm-100cmの境界より約1/3の少量に分布し、  
層の厚さは約10cm



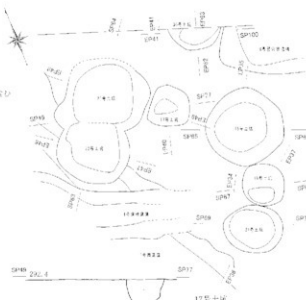
1. 100%の黒褐色 粘粒あり 土砂物  
50cm以内の層に分布し、  
100cm以内の層に分布し、  
層の厚さは約10cm



1. 100%の黒褐色 粘粒あり 土砂物



1. 100%の黒褐色 粘粒あり 土砂物  
50cm以内の層に分布し、  
100cm以内の層に分布し、  
層の厚さは約10cm



1. 100%の黒褐色 粘粒あり 土砂物  
10cm以内の層に分布し、  
50cm-100cmの境界より約1/3の少量に分布し、  
層の厚さは約10cm



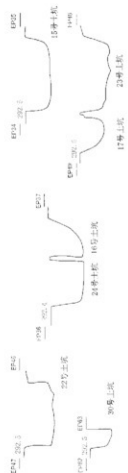
1. 100%の黒褐色 粘粒あり 土砂物  
10cm以内の層に分布し、  
50cm-100cmの境界より約1/3の少量に分布し、  
層の厚さは約10cm



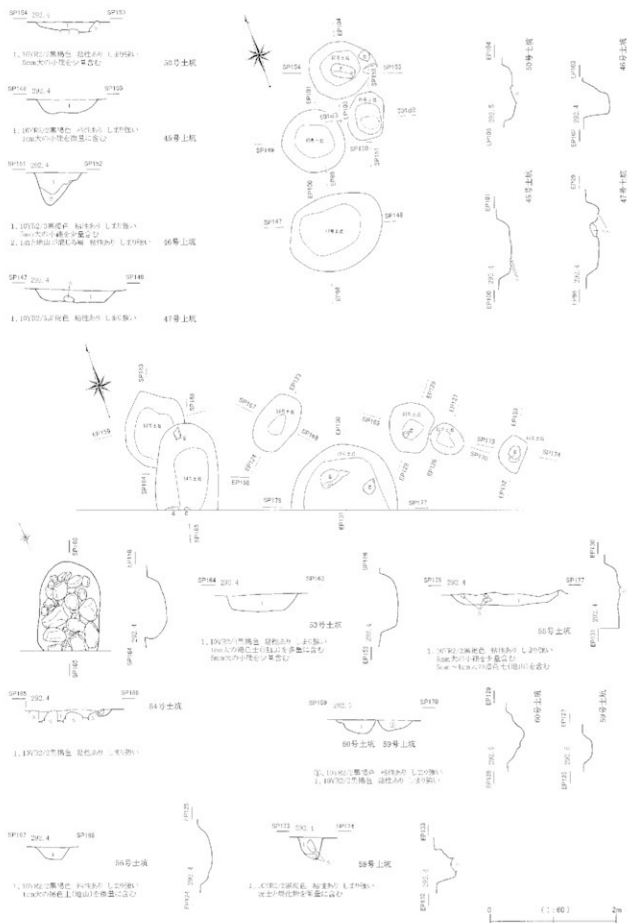
1. 100%の黒褐色 粘粒あり 土砂物  
10cm以内の層に分布し、  
50cm-100cmの境界より約1/3の少量に分布し、  
層の厚さは約10cm



1. 100%の黒褐色 粘粒あり 土砂物  
10cm以内の層に分布し、  
50cm-100cmの境界より約1/3の少量に分布し、  
層の厚さは約10cm

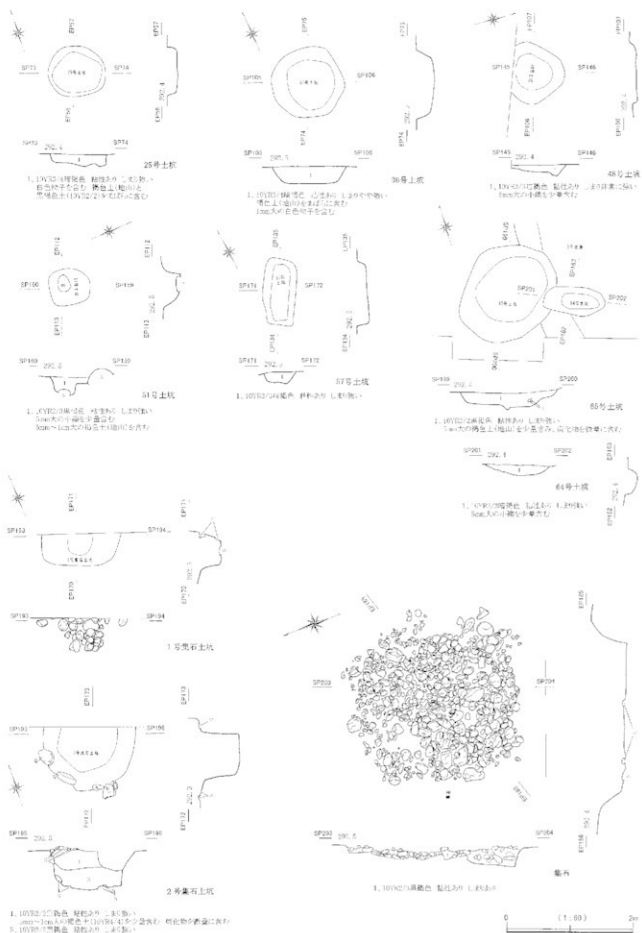


第24図 15～17、21～24、30、37、38、41、52号土坑

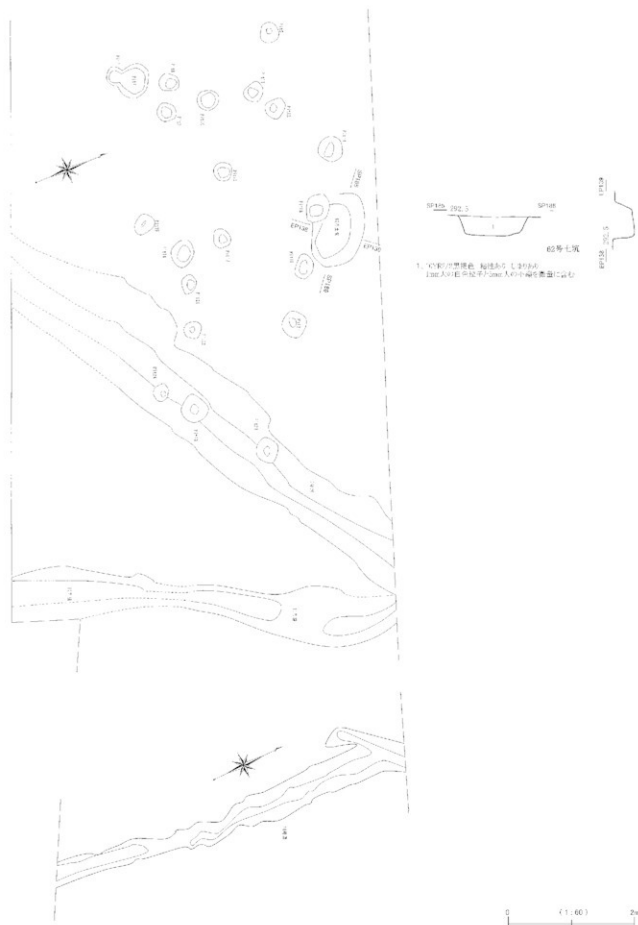


第25図 45～47、50、53～56、58～60号土坑

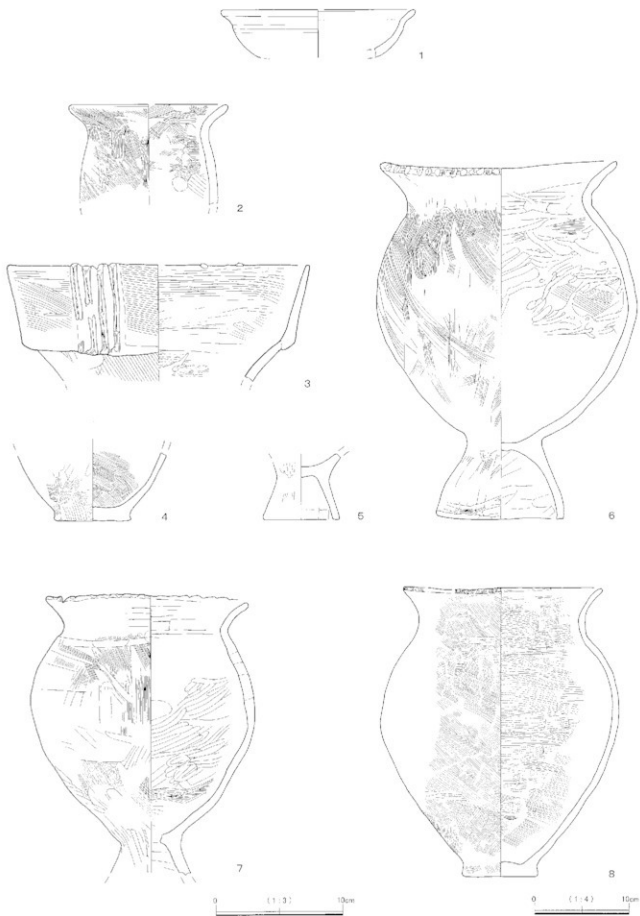




第26图 25、36、48、51、57、64、65号土坑、1、2号集石土坑、集石遗構



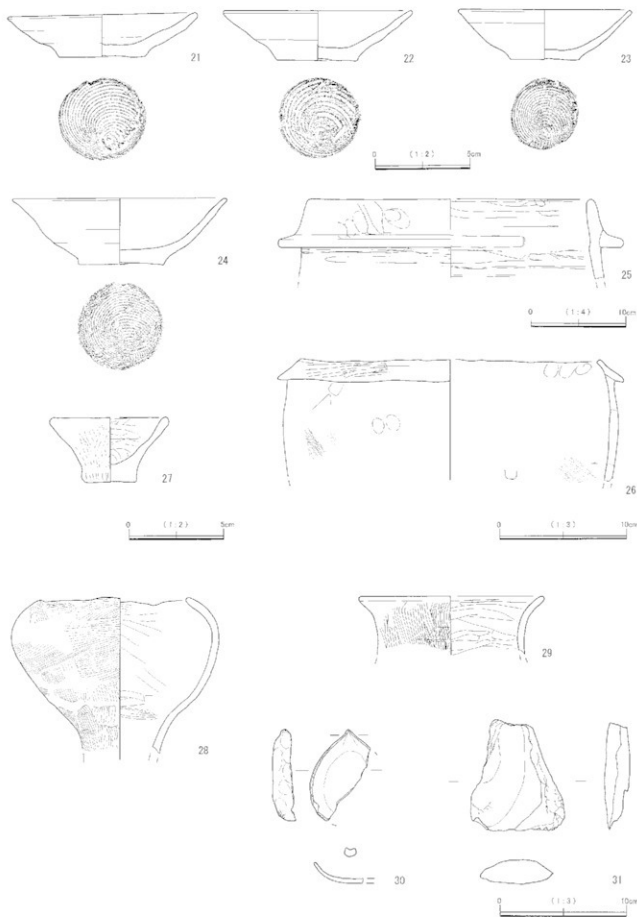
第27図 9～11号溝、62号土坑、ピット群



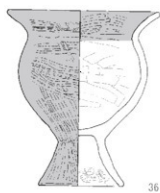
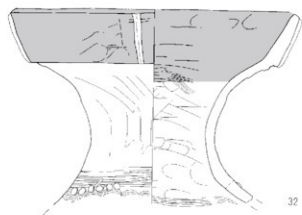
第28图 1号住居跡 2号住居跡 3号住居跡出土遺物



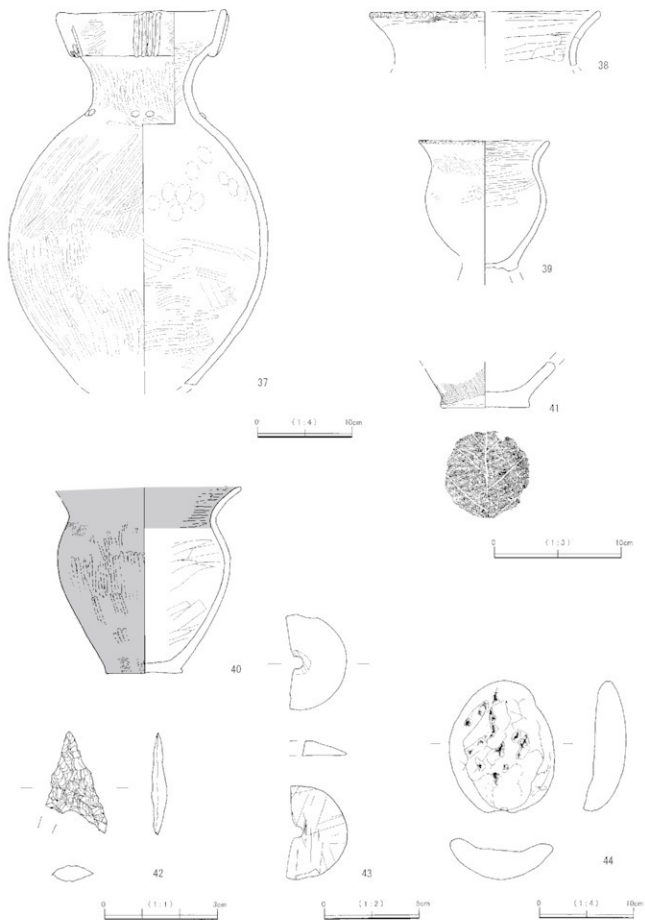
第29图 3号住居跡 4号住居跡 5号住居跡出土遺物



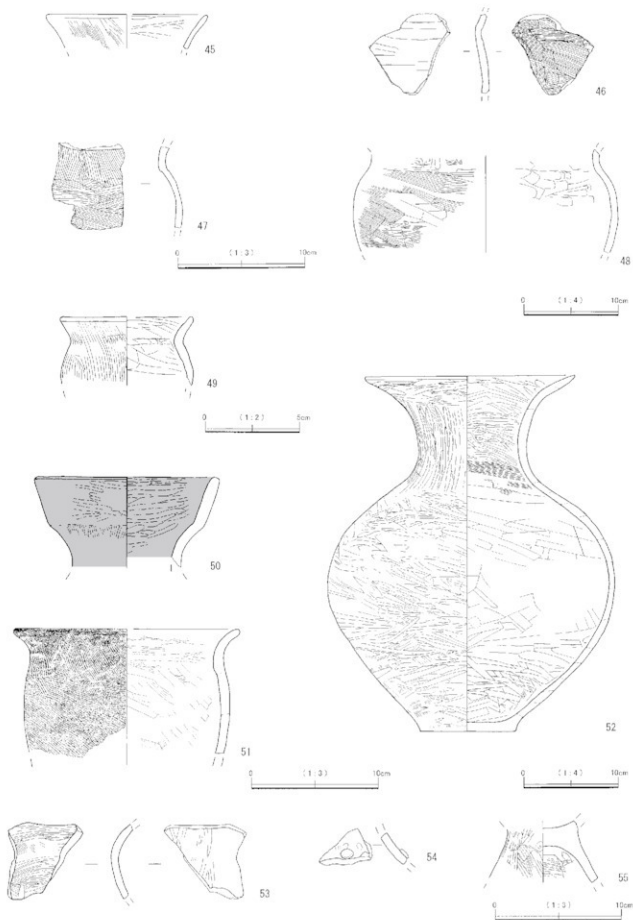
第30图 6号住居跡 7号住居跡 9号住居跡出土遺物



第31図 9号住居跡 12号住居跡カマド 1号石積壁竪穴状遺構 10号竪穴状遺構出土遺物

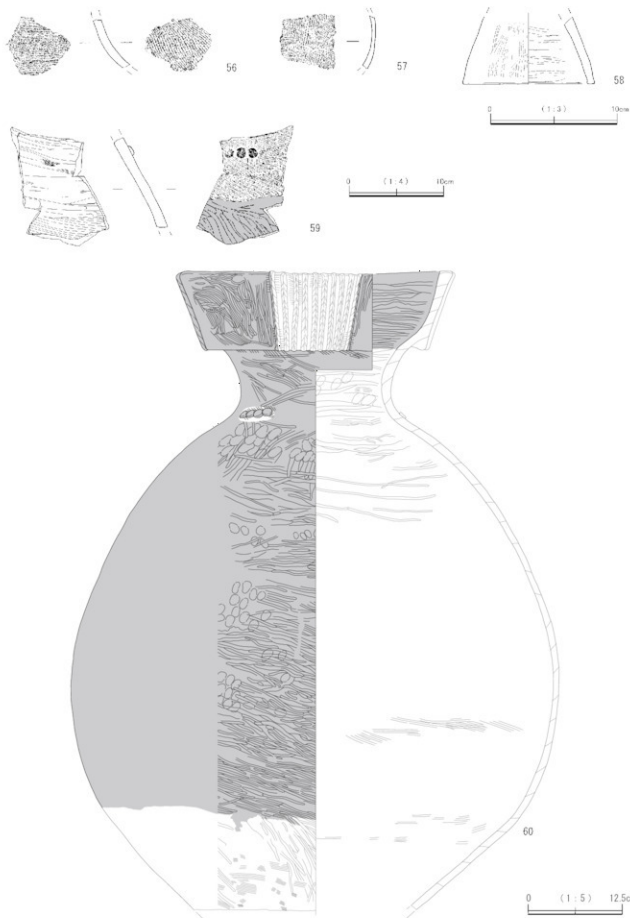


第32图 1号周溝墓出土遺物

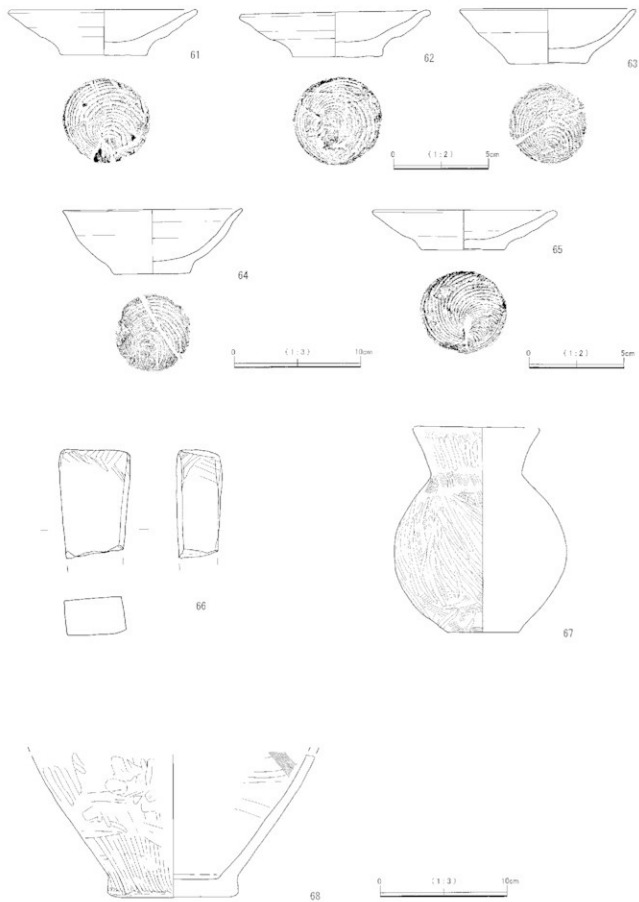


第33图 2号周冢墓 3号周冢墓 4号周冢墓出土遗物





第34图 5号周溝墓 6号周溝墓出土遺物



第35図 44号土坑 69号土坑 9号溝 落ち込み 遺構外 出土遺物

第3表 出土遺物観察表

番号	注記番号	器 種	器 形	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	色 調	胎 土	焼成	技法・器形の特徴
1	F15-10I-一括 F15-3ト1レ3住	土師質土器	杯	残3.8	(15.0)	—	外面2.5Y3/2黒褐/内面5Y3/1オリーブ黒	金雲母を含む 長石を少量含む	良好	内面土器
2	F15-20E-一括	弥生土器	小型甕	残8.0	(12.0)	—	7.5YR4/4褐	長石・赤色粒子・金雲母を少量含む	良好	外面顔付ハケ目→口縁部ハケ目/内面横位・斜位ハケ目
3	F15-20E-P6 F15-20E-P7	土師器	甕	残9.3	(23.8)	—	10YR5/4にぶい黄褐	長石・石英・雲母	良	横位口縁/外面口縁部ハケ目→頸部斜位ハケ目→ナデ調整→4単位位の塊状付入/内面1横位ハケ目→ナデ/漆黒にもみらなっている
4	F15-30ト1レ3住 P3	弥生土器	甕/甕型	残5.4	—	6.1	7.5YR7/6褐	キヤウヤ組い 長石・石英・赤色粒子・雲母・少量の赤色粒子	良好	外面顔付→ナデ→横位ハケ目→ナデ/内面横位ハケ目
5	F15-20E-P5	弥生土器	台付甕	残5.2	—	5.9	5YR6/6褐	キヤウヤ組い 顔面 雲母・赤色粒子・長石	良好	外面横位ヘラミダギ/調整はわずかに見取れる
6	F15-20E-P23 F15-20E-P24	弥生土器	台付甕	28.0	18.0	10.2	7.5YR6/6褐	長石・石英・金雲母・赤色粒子	良好	キヤミ口縁/外面顔面から体部斜位ハケ目 脚部ハケ目→ナデ/内面口縁部横位ハケ目→ナデ 頸部横位ヘラ削り
7	F15-30E-一括	弥生土器	台付甕	残22.0	15.7	—	10YR6/4にぶい黄褐	長石・石英	良好	キヤミ口縁/外面横位ハケ目→ナデ調整/内面横位ハケ目→ミダギ→口縁部横位ナデ/包頭あり
8	F15-30E-P16P17 F15-30E-P18P19	弥生土器	甕	30.8	(21.1)	8.1	7.5YR5/4にぶい黄	顔面 雲母・石英	良好	キヤミ口縁/外面顔面以下横位・斜位ハケ目→口縁部斜位ハケ目
9	F15-30E-P15 F15-30E-一括	弥生土器	小型甕	15.0	13.1	4.5	外面7.5YR3/2黒褐/内面5YR4/6赤褐	長石・石英・赤色粒子を含む	良好	キヤミ口縁/底部付近横位ハケ目→外面斜位ハケ目/内面ハケ目
10	F15-30E-P20	弥生土器	鉢	9.8	12.7	6.7	5YR5/6明赤褐	キヤウヤ組い 石英・雲母・白色粒子	良好	外面横位ハケ目→口縁部横位ナデ/内面横位ヘラ削り
11	F15-40E-一括	土師器	甕か	残9.5	—	—	2.5YR5/6明赤褐	長石・赤色粒子・金雲母	良好	内面横位ナデ
12	F15-40E-一括	土師器	杯	残3.8	—	—	5YR5/6明赤褐	長石・赤色粒子・雲母を少量含む	良好	内面横位ハケ目
13	F15-40E-一括	土師器	甕	残3.0	—	—	7.5YR4/2灰褐	長石	良好	キヤミ口縁/外面横位ハケ目/外面横位ナデ
14	F15-44E-一括	土師器	甕	残3.4	—	—	7.5YR5/6明褐	キヤウヤ組い 白色粒子多量・石英・赤色粒子	良好	外面横位・斜位ハケ目/内面斜位ハケ目→横位ハケ目
15	F15-44E-一括	白磁	甕か	残2.1	(11.8)	—	5Y6/1灰	顔面	良好	横位ハケ目
16	F15-5ト1レP2	土師器	甕	残9.65	17.5	—	5YR 6/8褐	キヤウヤ組い 顔面 雲母・長石・赤色粒子	良好	削り出し口縁/外面上部横位ハケ目/内面土器顔付ヘラミダギ→横位ハケ目/全体に磨耗が強い
17	F15-5住-一括	土師器	甕	残3.0	—	—	7.5YR5/4にぶい黄	キヤウヤ組い 白色粒子多量・石英・赤色粒子・雲母	良好	キヤミ口縁/外面斜位ハケ目/内面横位ハケ目
18	F15-5住E-一括	土師器	台付甕	残4.7	—	4.6	5YR5/4にぶい赤褐	キヤウヤ組い 長石多量・石英・赤色粒子	良好	内面斜位ナデ調整
19	F15-5住P8	土師器	甕/甕型	残9.3	—	(6.6)	7.5YR4/4褐	長石・金雲母・赤色粒子を含む	良好	外面横位ハケ目/内面横位ヘラ削り→ミダギ
20	F15-5住-一括	土師器	甕/甕型	残13.6	—	—	7.5YR6/4にぶい黄	キヤウヤ組い 石英・赤色粒子	良好	外面斜位ハケ目→横位ミダギ/内面横位ハケ目
21	F15-6住P94	土師質土器	小皿	2.3	9.9	4.65	7.5YR4/2灰褐	顔面 金雲母多量・長石	良好	底部赤切痕 6住住床から出土
22	F15-6住P95	土師質土器	小皿	2.7	9.96	4.3	7.5YR4/3褐	顔面 金雲母多量・長石	良好	底部赤切痕
23	F15-6住P97	土師質土器	杯	4.0	13.5	5.5	10YR3/1黒褐	顔面 金雲母多量	良好	底部赤切痕
24	F15-6住P96	土師質土器	杯	5.3	16.8	6.8	7.5YR3/1黒褐	キヤウヤ組い 顔面・金雲母	良好	底部赤切痕
25	F15-6住-一括	土師器	貝殻	残6.3	(22.0)	—	7.5YR4/4褐	長石・金雲母を多く含む	良好	内外面横位ハケ目 包頭あり
26	F15-6住EマF P44	土師器	貝殻	残31.0	(12.8)	—	5YR4/4にぶい赤褐	長石・石英を含む	良好	内面口縁部ヘラ削り 頸部斜位ハケ目/内面斜位ハケ目/包頭あり
27	F15-7住-一括	土師器	ミニチュア土器	3.45	(6.0)	2.7	7.5YR5/4にぶい黄	キヤウヤ組い 長石・石英を多量に含む	良好	外面体部横位ハケ目→ナデ/内面横位ミダギ
28	F15-7住P33 F15-7住-一括	土師器	甕	残12.5	(11.6)	—	5YR3/1黒褐	顔面 長石・石英・赤色粒子	良好	外面口縁部下斜・横位ハケ目→上半横位ハケ目 頸部斜位ハケ目/内面上半横位ハケ目調整→斜・横位ナデ調整 下半横位ハケ目/変形痕
29	F15-7住-一括	土師器	甕	残4.7	(14.4)	—	7.5YR4/4褐	長石・石英・雲母・赤色粒子	良好	外面横位ハケ目/内面口縁部横位ハケ目調整→横位ヘラミダギ
30	F15-9住P43	土師器 (土製品)	片口皿か	1.7	—	—	7.5YR6/4にぶい黄	キヤウヤ組い 石英・雲母・白色粒子	良好	外面顔面磨り 彫型土製品の可能性もあろう
31	F15-9住E5	石製品	打製石斧	最大長 7.4 最大幅 1.9	最大厚 1.7	—	—	—	—	—
32	F15-9住E42	土師器	甕	残15.6	22.0	—	5YR5/8明赤褐	長石・石英・赤色粒子・雲母	良	横位口縁部・内外顔赤影あるが厚化粧/外面顔部横位ハケ目→唇縁状文→405mm前後の右タテ状付入を1単位3.5×用・7単位1単位3.5×用→口縁部塊状付録1条6単位(一部欠損)/内面顔部横位ハケ目
33	F15-12EホマF P1	土師質土器	杯	5.0	(14.2)	(6.6)	10YR4/2灰黄褐	金雲母を多く含む	良好	底部赤切痕
34	F15-12E-一括	土師質土器	皿	残3.3	(15.3)	—	7.5YR4/3褐	金雲母を多く含む	良好	底部赤切痕
35	F15-1石タP22	青磁	皿/杯	残1.5	—	(5.0)	外面5Y7/1灰白 内面5Y6/2灰オリーブ	顔面	良好	見込みに磨点痕文
36	F15-3トケ-4ト1P1	土師器	台付甕	13.9	(11.9)	6.5	外面2.5YR3/4暗赤褐/内面7.5YR5/4にぶい黄	顔面 長石・石英	良好	外面全体土内面口縁部赤影/外面ミダギ/内面横位ヘラ彫形 頸部ハケ目

37	F15-1周P2・P4	土師器	壺	残30.7	18.1	—	2.5YR5.6明赤褐	キメや中粗い・砂粒を多く含む	良好	黄赤口縁/外面ミズギ→口縁部5ヶ所に4単位位の棒状浮文・肩部5ヶ所に2個1単位位のボタン状浮文/内面口縁部から胴部縁位へタ型彫/赤彩あり 底部穿孔・胴部穿孔のみ
38	F15-1周一拵	土師器	壺	残4.5	(18.0)	—	10YR4.2灰黄褐	長石・石英・赤色粒子・雲母	良好	キズミ口縁/内外面縁位へウ調整
39	F15-1周P1	土師器	小型台付甕	残10.2	11.5	—	5YR4.1/2い赤褐	キメや中粗い・白色粒子を少量含む	良好	キズミ口縁/外面縁部縁位のハケ目・全体わずかに横位ミズギ/内面口縁部から胴部上まで横位ミズギ/底部に胴部欠損の痕跡あり
40	F15-1周P11	土師器	小型壺	14.7	(15.2)	6.1	10YR5.6赤	キメ細かく顕密・雲母・長石・赤色粒子	良好	外面内面口縁部赤彩/外面ハケ目→縁位ミズギ/内面底部ウ調整→口縁部縁位
41	F15-1周一拵	土師器	袋底部	残3.6	—	7.0	7.5YR5.3/1い黄褐	顕密・長石・石英	良好	底部木葉痕/外面縁位ハケ目
42	F15-1周一拵	石製品	石皿	最大長 6.6 最大幅 1.5	最大厚 0.4	—	—	—	—	黒曜石
43	F15-1周P3	石製品	紡錘車	最大長 2.4 最大幅 5.1	最大厚 0.8	—	—	—	—	—
44	F15-1周一拵	石製品	石皿 <small>of</small> 石	最大長 14.0 最大幅 11.0	最大厚 3.1	—	—	—	—	—
45	F15-2周一拵	土師器	小型壺	残2.7	(12.4)	—	10YR5.4/1い黄褐	長石・雲母を含む	良好	外面縁位ハケ目/内面縁位ウ調整
46	F15-2周一拵	土師器	壺	残6.3	—	—	7.5YR6.6褐	長石・赤色粒子・石英を含む	良好	外面縁位ハケ目/内面縁位ナデ
47	F15-2周一拵	土師器	壺	残6.5	—	—	7.5YR6.6褐	長石・赤色粒子を含む	良好	外面縁位ハケ目→横位ハケ目/内面底部縁位ハケ目→ナデ
48	F15-2周一拵	土師器	壺	残10.7	—	—	外面10YR4.3/1い黄褐 内面10YR6.4/1い黄褐	長石・石英を含む	良好	外面ハケ目/内面ウ調整→ナデ
49	F15-3周一拵	土師器	ミニチュア土師器	残3.7	(6.8)	—	10YR6.4/1い黄褐	長石を少量含む	良好	外面縁位ハケ目→口縁部ナデ/内面口縁部縁位ハケ調整→ウ調整
50	F15-3周一拵	土師器	壺	残7.2	(13.6)	—	5YR4.6赤褐	キメや中粗い・密・砂粒を多く含む	良好	黄赤口縁・内面赤彩・外面赤彩は摩耗/外面底部縁位ハケ目→横位ミズギ/赤彩/内面縁位ミズギ
51	F15-3周P22	土師器	壺	残9.9	(17.6)	—	7.5YR6.4/1い黄褐	密・石英・雲母	良好	外面縁位縁位ハケ目→口唇部縁位ハケ目/内面斜位ハケ目→口唇部縁位ハケ目→ウナデ
52	F15-3周P24-26 F15-3周P27	土師器	壺	37.8	22.1	10.1	5YR6.8褐	キメ細かく顕密・雲母・長石・赤色粒子	良好	外面ハケ目→底部横位ミズギキ→胴部ウ調整→横位ハケ目/外面ハケ目→ウナデ/口唇部縁位へウ調整
53	F15-4周一拵	土師器	壺	残5.9	—	—	7.5YR6.6褐	キメ細かく顕密・雲母・長石	良好	外面わずかに横位へウ調整/内面縁位ハケ目
54	F15-4周一拵	土師器	壺	残2.5	—	—	7.5YR5.4/1い黄褐	キメや中粗い・白色粒子多量・石英・雲母	良好	外面Φ1cmのボタン状浮文あり
55	F15-4周一拵	土師器	台付甕	残4.8	—	—	5YR5.4/1い赤褐	長石・石英・赤色粒子を含む	良好	外面ハケ目/内面縁位ハケ目/内外面とも磨耗強い
56	F15-5周一拵	養生土器	壺	残3.8	—	—	7.5YR6.6褐	キメ細かく顕密・長石・雲母・石英	良好	外面1.5無彫純文/内面縁位ハケ目→ナデ
57	F15-5周一拵	土師器	台付甕	残4.2	—	—	外面10YR7.6明黄褐 内面2.5Y3.1黒褐	キメや中粗く顕密・金雲母・長石	良好	外面縁位ハケ目
58	F15-5周一拵	土師器	台付甕	残5.1	(9.4)	—	5YR6.6褐	顕密・雲母・石英	良好	外面縁位ハケ目→ナデ/内面縁位ハケ目
59	F15-6周一拵	土師器	壺	残10.6	—	—	10R4.4赤褐	長石・石英・赤色粒子を少量含む	良好	外面赤彩あり/外面斜位ハケ目→1.5無彫純文→密・横位へウ調整・Φ1cmのボタン状浮文3点/内面縁位ハケ目→上平縁位ハケミズギ
60	F15-6周P40	土師器	大型赤彩壺	残84.3	35.7	最大径 64.6	10R4.4赤褐	長石・石英を少量含む	良好	黄赤口縁・棒状浮文5条2.5条、10条・13条各1ヶ所ずつ・ボタン状浮文4個1単位5ヶ所(欠損部分4ヶ所) 外面ハケ調整→ハケ粗り→棒状浮文・ボタン状浮文→ハケミズギ→赤彩/内面ハケ調整→口縁部へウミズギ
61	F15-44:P31	土師質土器	小皿	2.5	9.9	4.7	7.5YR5.4/1い黄褐	顕密・金雲母多量	良好	底部赤切痕
62	F15-44:P32	土師質土器	小皿	2.5	9.9	4.8	7.5YR4.3褐	顕密・金雲母多量	良好	底部赤切痕
63	F15-44上一拵	土師器	坏	5.4	13.75	6.2	7.5YR7.6褐	キメや中粗く顕密・雲母・赤色粒子	良好	底部赤切痕
64	F15-44上一拵 F15-44上トレ1土P1	土師器	坏	5.1	14.0	6.0	5YR6.6褐	キメや中粗く顕密・雲母・赤色粒子	良好	底部赤切痕
65	F15-49上P99	土師質土器	小皿	2.15	9.6	4.45	7.5YR5.6明褐	顕密・金雲母多量	良好	底部赤切痕
66	F15-9キ/5A	石製品	砥石	最大長 8.6 最大幅 5.1	最大厚 2.9	—	—	—	—	—
67	F15-オナコミP41	土師器	小型壺	16.3	9.8	5.6	5YR5.6明赤褐	キメや中粗い・砂粒を多く含む	良	外面縁位のハケ目→斜位のミズギ/内面はヤンガラが認められているため観察不可
68	F15-シタケトレP1	土師器	袋底部	残11.4	—	(8.5)	7.5YR3.0暗褐	長石・石英・赤色粒子・雲母	良好	外面下半斜位ハケ目/内面底部縁位ハケ目
69		金属製品	銭貨	—	—	—	—	—	—	棒状元貨 直径2.6cm
70		金属製品	銭貨	—	—	—	—	—	—	圓形元貨か 直径2.4cm 割れている



# 写真図版







調査前風景（東から）



調査前風景（西から）



調査区西側①（東から）



調査区西側②（東から）



調査区中央①（西から）



調査区中央②（西から）



調査区東側①（西から）



調査区東側②（西から）





1号住居跡（西から）



1号住居跡 カマド（西から）



2号住居跡（北西から）



2号住居跡（南西から）



2号住居跡 遺物出土状況（北から）



3号住居跡（北から）



3号住居跡（北西から）



3号住居跡 遺物出土状況（東から）



4号住居跡 (南から)



4号住居跡 (西から)



5号住居跡 (南西から)



5号住居跡 (北西から)



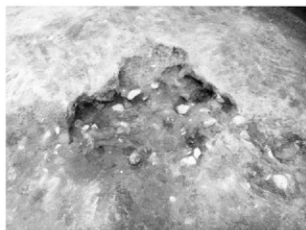
6号住居跡 (北から)



6号住居跡 (北西から)



6号住居跡カマド 遺物出土状況 (北西から)



6号住居跡カマド 完掘 (北西から)



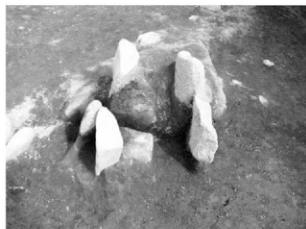
7号住居跡（北から）



9号住居跡（北西から）



12号住居跡カマド 検出（西から）



12号住居跡カマド 完掘前（西から）



1号周溝墓（南東から）



1号周溝墓（北西から）



1号周溝墓 遺物出土状況（南東から）



1号周溝墓 遺物出土状況（南西から）



2号周溝墓 (北東から)



2号周溝墓 (南東から)



3号周溝墓 (南西から)



3号周溝墓 (南東から)



3号周溝墓 遺物出土状況 (北から)



4号周溝墓 (北西から)



4号周溝墓 (北東から)



5号周溝墓 (南東から)



5号周溝墓 (南西から)



6号周溝墓 (北西から)



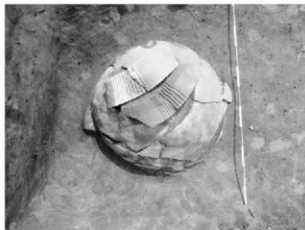
6号周溝墓 (南西から)



6号周溝墓 遺物出土状況 (北から)



6号周溝墓 遺物出土状況 (北西から)



6号周溝墓 遺物出土状況 (上から)



6号周溝墓 遺物取り上げ状況①



6号周溝墓 遺物取り上げ状況②



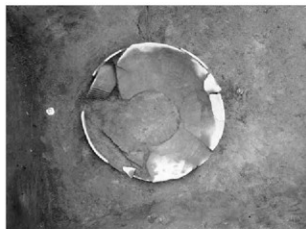
6号周溝墓 遺物取り上げ状況③



6号周溝墓 遺物取り上げ状況④



6号周溝墓 遺物取り上げ状況⑤



6号周溝墓 遺物取り上げ状況⑥



6号周溝墓 遺物取り上げ状況⑦



1号溝 完掘 (東から)



4号溝 完掘 (南から)



9号溝 完掘 (北東から)



3号竪穴状遺構 完掘（南西から）



4号竪穴状遺構 完掘（西から）



8号竪穴状遺構 完掘（南から）



10号竪穴状遺構 完掘（西から）



1号石積壁竪穴状遺構 完掘（南から）



1号石積壁竪穴状遺構 完掘（南から）



1号石積壁竪穴状遺構 完掘（西から）



3号土坑 完掘（南から）



4号土坑 完掘(南から)



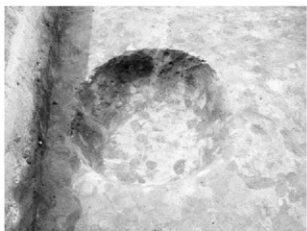
5号土坑 完掘(南から)



8号土坑 完掘(北西から)



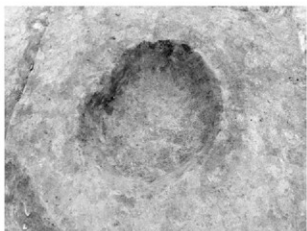
9号土坑 完掘(北西から)



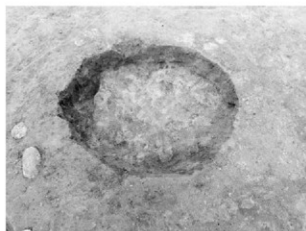
13号土坑 完掘(東から)



14号土坑 完掘(南から)



21号土坑 完掘(南から)



25号土坑 完掘(南から)





27号土坑 完掘（南から）



33号土坑 完掘（東から）



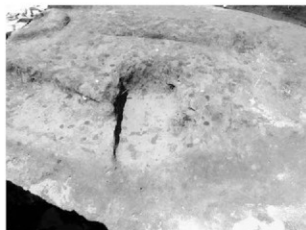
34・35号土坑 完掘（南から）



41（奥）・37号土坑 完掘（東から）



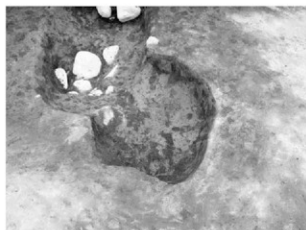
39号土坑 完掘（南から）



44号土坑 完掘（南から）



44号土坑 遺物出土状況（南西から）



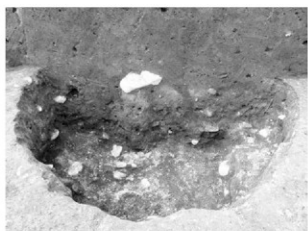
53号土坑 完掘（北から）



54号土坑 検出（北から）



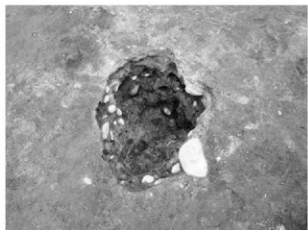
54号土坑 完掘（北から）



67号土坑 半截（北から）



67号土坑 完掘（南から）



69号土坑 完掘（南から）



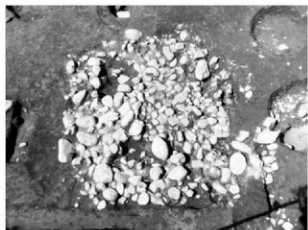
1号集石土坑 検出（南から）



1号集石土坑 完掘（南から）



ビット群（北西から）



集石 検出(南から)



落ち込み 完掘(北から)



落ち込み 遺物出土状況①(北から)



落ち込み 遺物出土状況②(北から)



調査風景①



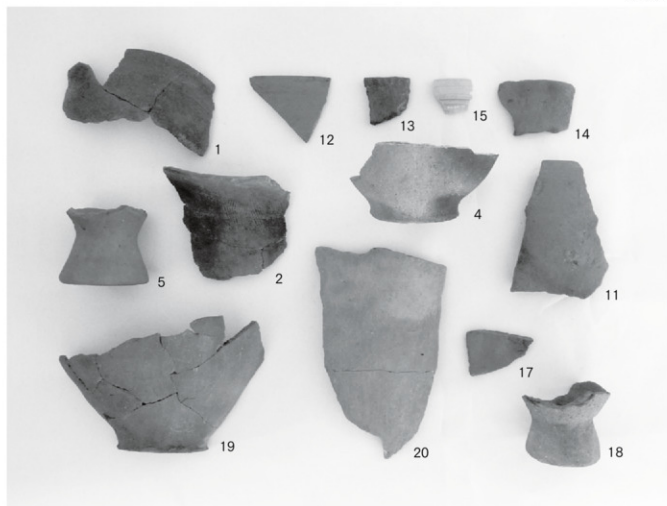
調査風景②



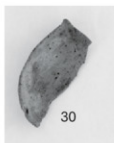
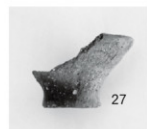
双葉中学校 職場体験

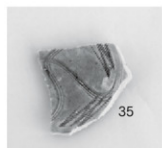


竜王北中学校 職場体験



土器 (1~7、11~15、17~20)





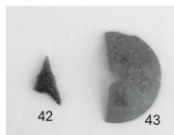
35



36



37

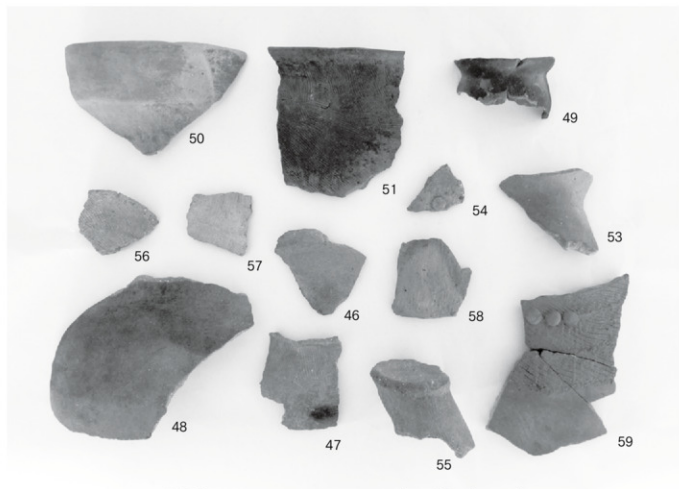


42

43



39



土器 (35~37、39、46~51、53~59)、石製品 (42、43)



# 報 告 書 抄 録

ふりがな	まつのおいせき							
書名	松ノ尾遺跡15							
副書名	宅地造成工事伴う弥生・古墳・平安時代の発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	甲斐市文化財調査報告書							
シリーズ番号	25							
編著者名	西順 麻以 長谷川 哲也							
編集機関	甲斐市教育委員会							
所在地	〒400-0192 山梨県甲斐市篠原2610							
発行年月日	平成28年〔西暦2016年〕3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	度分秒	度分秒			
まつのおいせき 松ノ尾遺跡 (第15次)	山梨県甲斐市 中下条地内	19210	敷-18	35度40分 50秒	138度31分 28秒	平成27年 5月8日 ～ 平成27年 8月20日	718㎡	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
松ノ尾遺跡	集落跡	弥生 古墳 平安	住居跡 周溝墓 土坑	弥生土器 土師器	松ノ尾遺跡で初めて周溝墓が確認された。 6号周溝墓の周溝から、残存高84.3cmの大型 赤彩壺(複合口縁壺)が出土した。 落ち込みからベンガラの入った壺が出土し た。			



甲斐市文化財調査報告 第25集

---

## 松ノ尾遺跡 15

発行日 平成28年(2016年)3月31日  
発行 甲斐市教育委員会  
山梨県甲斐市篠原2610  
TEL (055) 278-1697  
印刷 株式会社 少国民社

---